2018 年 7 月 1 日

青森大学ニュース No.34

青森大学改革ビジョン 2018

学長　金井　一賴

はじめに

全国の多くの私立大学において定員充足ができない状況が生じている（40％弱の大学で定員割れを起こしている）。今後、18 歳人口はしばらく減少し続けことが想定されており、大学進学率が多少増加したとしても、私立大学の経営が難しい局面に立たされることは否定できない。競争戦略的に見ると、大学は、市場の需要が減少するにもかかわらず、撤退者がほとんど出ない、喉斬り型の競争環境に直面していると考えられる。このような困難を乗り越え、輝ける大学となるためには、大学教育の価値創造に向けた変革を起こし、時代の流れやニーズを的確に捉えた経営が不可欠である。

青森大学は、これまで苦しい時期を経験し、青森山田学園理事長のリーダーシップのもと、その苦難の時期を乗り越えてきているが、今後さらに、環境の急激な変化に対応した大幅な変革を実施することが必要である。そのためには、高校生や保護者に理解しやすい、個性豊かな、尖った大学づくりが求められる。個性豊かな大学づくりを目指して、各学部がコラボレートしながら、それぞれの教育目標を具体的に提示し、各目標の達成に向けてその戦略を明確化し、分かりやすい言葉で受験生や保護者に説明し、共感をえることが必要である。

そこで、大学改革の方針として、青森大学の理念をベースに、ICT やグローバル化時代に対応した教育方針を確立し、どのような人材を育成するかについての具体的な方策を明示することが肝要である。青森大学の人材育成の方針として「地域に根ざしながら、グローバルな視点から地域を捉え、イノベーションを通じて地域や企業の活性化に貢献できる人材の育成」を志向する。また、青森大学全体としても,地域の活性化に貢献できる体制の構築を推進する。そして、このような趣旨のもと青森大学の改革ビジョン 2018 を下記のように提示する。

1　青森大学改革ビジョン 2018

1－1　グローバリージョン大学

「グローバリージョン」とは、グローバルとリージョンを合わせて創った私の造語で、地域とともに生き、真の地域貢献を行うためには、グリーバルな視点から地域を捉え直し、複数の地域を経験し、住んでいる地域を相対化できる能力が必要であり、。そのためには多様な国の人々と直接交流し、多様性の中で思考することが要請されることを示しております。

1－2　尖った大学

「尖った大学」とは、本学が位置する青森は中小企業で成り立っている地域であり、県自体も決して豊かとは言えない地域であります。このような地域に生きる小規模な大学が地域とともに生き、地域に貢献していくためには、いろいろなことを中途半端に行うのではなく、真に貢献できる領域に集中し、そのような能力を持った人材を育成していくことが必要であるとの認識を示したものです。そこで、本学は、中小企業、ベンチャー(スタートアップ

ス)、イノベーションという分野に焦点を合わせ、総合的に教育研究を行っていくことを明らかにしました。このような戦略をとっている大学は、本学以外他にありません。尖った大学というビジョンは、地域と共に生き、地域を活かすという本学の理念を実現し、本学が新たな環境の中で生存し、発展していくための独自戦略を提示したものであります。本学の理念をベースに、このような分野に集中し、独自性を打ち出していくことで、青森のみならず、全国、あるいはアジア各国から学生を集めることが可能であると考えております。

1－3 利害関係者の価値創造と実現

全ての組織は、多様な利害関係者に囲まれて生存しております。様々な利害関係者の支持なくては存続不可能です。本学の利害関係者としては、学生、保護者（家族）、教職員、高校、企業、地域社会等があげられます。学生は、本学に入学したことでワクワク楽しく学生生活を送り、実践知を学べること、保護者にとっては、子供が青森大学に入学することで、楽しく学び、成長しているということ、教職員は、本学で有意義な教育・研究ができること、高校は、青森大学に入学させた生徒が生き生きと学んでいること、企業にとっては、本学の卒業生が活躍し、採用して良かったと感じられること、地域社会においては、青森大学の卒業生が様々な分野で活躍し、地域社会の活性化に貢献していることが、本学にコミットする価値となっている。青森大学は、このような多様な価値を創造し、実現することで生存し、発展できることを全ての活動のベースとすべきである。

2 行動指針

上記のようなビジョンを実現するために、次のような行動指針を定める。

2－1 志

志やこのようにありたいという姿を常に意識し、自らを高めていく努力を怠らない。

2－2 全体と個の融合

自らの志と全体の方向性のベクトルを合わせていくことは個の成長と組織の発展のいずれにおいても必要不可欠な要件である。本学のように、小規模かつ多様な大学においては、全体と個の融合は、特に重要である。各人が、目標を共有し、周囲とコミュニケートしながら目標実現のために協働していくことが重要である。

2－3 チャレンジ

志や目標を決めたら、その実現にむけて積極的に挑戦していくことが求められる。現状に甘んじることなく、自らの成長と大学の発展を目指して挑戦していく。

2－4 ワクワク楽しく

チャレンジするためにはこれまで以上の努力とコミットメントが求められる。ワクワク楽しくチャレンジすることで、多くの人たちを惹きつけ、困難であったことも実現可能となり、周りを明るくすることができる。楽しく、前向きに行動しよう。

2－5 情熱と思いやり

困難と思える目標や仕事も情熱を持って行えば実現可能となる。多くの仕事は、他のメンバーとの協働なしには達成不可能である。情熱は波及し、他のメンバーを動かす。そして、多様な人々への思いやりの心を持って行動することが重要である。

2 各学部の変革戦略の要諦

2－1 総合経営学部

総合経営学部の変革戦略のポイントは、ビジネス創造と中小企業の変革を通じて地域経済の活性化に貢献することである。総合経営学部を尖った学部にするためには、他の大学の経営学部や商学部にないベンチャー

創造や中小企業のイノベーションにフォーカスを当て
、その分野の研究教育を体系的に行う体制を整えることが肝要である。例えば、総合経営学部を事業創成コース、中小企業イノベーションコース、観光ビジネスコース、スポーツビジネスコースの 4 コース制として、尖らせることが可能であろう。

2－2 社会学部

社会学部を尖らせた学部に変革するポイントは、既存の社会システムが閉塞しており、新たな社会システムへの変革が必要であるとの認識の共有が求められる。この前提に立って、新たな地域社会のあり方を構想できる人材の育成が本学に求められている課題であり、この課題に対応するためには、地域社会構想コース、ソーシャル・ビジネスコース、社会福祉コースの 3 コース制をとって、新たな基軸のもと本学部を尖らせることが必要である。

2－3 ソフトウェア情報学部

ICT の急速な展開は、本学部に変革を迫っている。本学部は、プログラミングを徹底的に指導すると言うことで地域に浸透を図ってきた。しかし、プログラミングはあくまでも基礎であって、本学の独自性を際立たせる武器とはならない。したがって、これまで築いてきたプログラミングをベースに情報システム開発コースとビッグデータ活用コースを設けて特徴をだすことが必要である。

2－4 薬学部

定員確保が必須の要件である。そのために、薬学部改革プロジェクトチームを設けて早急に定員確保の戦略を考える。また、関連各機関とのネットワークを構築し、協力を得ることも重要である。上記のような戦略に加えて、足繁く高校に出向き,青森大学薬学部の魅力を説明し、共感を得る地道な努力が求められる、それとともに、国家試験の合格者数をできる限り多く出すような大学内の改革が必要不可欠である。

2－5 総合研究所

総合研究所を青森大学の独自な研究と地域連携の中核機関とする。そのためには、本学の総合力を活かすことができるテーマを設定し、全学的に取り組みことが要請される。また、本学は地域連携活動に積極的なことで知られているが、バラバラになっている地域連携活動を研究所でまとめて本学全体の地域連携戦略を策定する。

全　学　の　動　向

大学の行事（平成３０年１月～６月）

１月１５日　授業再開
１月３０日～２月５日　後期試験
２月　６日～３月３１日　春季休業
３月１６日　平成２９年度学位記授与式
４月　１日　青森山田学園全体会議
４月　２日　平成３０年度入学式
４月　２日～４日　新入生オリエンテーション
４月　２日～４日　在学生ガイダンス
４月　５日　前期開始
４月１５日　創立記念日
５月１９日　第１回オープンキャンパス
５月１９日　第１１回学びの森市民セミナー
５月２５日　第２５回寺山修二忌

○平成 29 年度青森市文化賞・スポーツ賞表彰式

1 月 25 日、平成 29 年度青森市文化賞・スポーツ賞表彰式がホテル青森で行われました。

同賞は、文化・スポーツにおいて優秀な成績を収めた方及び団体に与えられ、本学からは以下の 2 団体・個人 2 名が受賞しました。

◆スポーツ奨励賞◆

【団体】

・新体操部

第 69 回全日本学生新体操選手権大会　男子団体　優勝

・準硬式野球部

平成 29 年度東北地区大学準硬式野球　春季リーグ戦 1 部リーグ　優勝

【個人】

永井直也（新体操部）総合経営学部 4 年

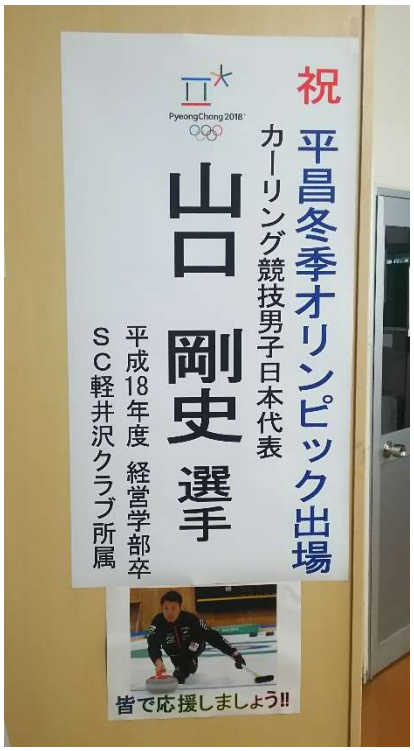
第 70 回全日本新体操選手権大会　男子個人　優勝

安藤梨友（新体操部）総合経営学部 1 年

第 70 回全日本新体操選手権大会　男子個人　第 3 位

○本学卒業生、山口剛史さんが平昌オリンピックに出場します！

2 月 9 日より開催される平昌冬季オリンピックに、本学卒業生の山口剛史さんがカーリング競技男子日本代表として出場します。（平成 18 年度　経営学部卒）



○青森大学・冬のワンダーランドを開催

2 月 10 日、「あおもり冬のワンダーランド」（主催：雪だ！灯りだ！芸術だ！あおもり冬のワンダーランド実行委員会）に、本学学生による有志 6 グループが参加しました。学生が制作した「イグルー」（北極圏の雪の家）や

忍者体験、オリジナルの「おやき」販売など、多くの来場者で賑わいました。

○剣道部、試合結果報告！！

第 66 回全日本都道府県対抗剣道優勝大会

第 10 回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

青森県予選会（青森市：みちぎんドリームスタジアム）

男子次鋒の部（大学生）

優　勝：三上正弥（総合経営学部 2 年・五所川原第一高校出身）

第3位：阿部峻大（薬学部 1 年・五所川原第一高校出身）

女子次鋒の部（大学生）

優　勝：古川黎乃（総合経営学部２年・五所川原第一高校出身）
第2位：村上日菜（薬学部２年・北海道栄高校出身）
女子中堅の部（18 歳～35 歳未満）
優　勝：倉本みずき（青森大学職員）

○第 10 回青森市民総合ハンドボール大会優勝！
2 月 18 日、青森東高等学校体育館で開催された第 10 回青森市民総合ハンドボール大会において、本学ハンドボール部が見事優勝を果たしました！（初優勝）
応援してくださった皆様ありがとうございました！

○「道の駅いまべつ」に活動成果を報告

青森大学と「道の駅いまべつ」の連携協定に基づいて、本年度、同駅の振興策の検討に取り組んできた社会学部生 2 名が 2 月 27 日、同駅で報告会を開き、レンタサイクルの活用や情報発信の強化を柱とする提言を行いました。また、試作した「みんなで作るサイクリング用マップ」を披露しました。

青森大学は 2015 年 10 月、国土交通省青森河川国道事務所の協力で「道の駅いまべつ」と連携協定を結び、学生たちが同駅の利用促進策の企画検討などに取り組む「企画連携型」の活動を展開してきました。本年度は社会学部・櫛引ゼミの對馬有希さん（4 年）と佐々木圭介君（3 年）が、フィールドワークや聞き取りを重ね、集客力や利便性の向上に関する検討を行いました。

学生らは、新幹線による来訪者の増加が一段落したことを数字で示しながら、かねてからの課題である情報発信・広報機能強化が必要だとあらためて指摘しました。また、新幹線などの待ち時間を有効活用してもらうための工夫が要ると強調しました。

その対策の一つとして、同駅が管理している 6 台の無料レンタサイクルの活用を挙げ、実際に利用した人々が観光スポットへの所要時間や感想、気づいた点などを記入できるサイクリング用マップの試作品を紹介しました。さらに、引き続き、このマップの完成と、マップ活用体制づくりの提言に取り組むことを報告しました。

参加者からは「何とか広報に力を入れたい」「マップの実現について検討したい」といった感想が聞かれました。

○「あおりんプロジェクト」成果発表会開催！

3 月 2 日、あおりんプロジェクトの成果発表会を開催しました。

「あおりんプロジェクト」とは、本学の学生による優れたプロジェクトを支援するために創設され、研究、課外活動及び地域貢献など、学生が主体的に取り組むプロジェクトを通して、その創造性や自主性を高め、人間的成長を促すことを目的としたもので、今年度より始動したものです。

発表会には 4 団体が参加し、崎谷学長の挨拶のあと、各団体がそれぞれ写真や動画を交えながら活動の成

果報告を行いました。

1. Rasisa　青森大学楽しみ隊　　2. 青森大学アカペラプロジェクト

3. アロマ調香プロジェクト　　4. 忍者アクロプロジェクト

発表会後の交流会では、参加した学生と先生方が今後の課題などを話し合いました。

○「大学 SDGs ACTION！AWARDS」下川町賞受賞！

国連が掲げる 2030 年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて活動する大学生らを集めたコンテスト「大学SDGs　ACTION！　AWARDS」（朝日新聞社主催）が開催されました。

このアワードに本学の総合経営学部 1 年のワイバ・ゴビンダさんと喜來大智さんが応募し、全国から 95 件の応募の中、一次書類選考を見事突破し最終選考に進みました。最終選考会は 3 月 10 日、東京・有楽町朝日ホールで開催され、一次選考を通過した 7 大学 9 チーム・個人が活動実績やアイデアを発表しました。

6 番目にプレゼンテーションに臨んだゴビンダさんの「青森から森のメッセージを届けに来ました」という言葉を皮切りに、「ネパールで生まれ育った自分が、経済や科学技術が発展している日本で学び、自国の経済的発展に貢献したいという思いで留学した。しかし、青森大学に来て、経済発展だけではなく、環境や安全・安心にこだわった地元企業を知ることで価値観が変化した」と語り、喜來さんは「青森生まれ、青森育ちの自分は、青森の自然が好きでこの活動をしたい。森だけにとどまらず、雪という資源もポジティブな資源にしたい」と熱意あるプレゼンテーションを展開しました。

二人の提案は、青森山田学園が所有する 73ha の山林の活用と、現在は使用されていない学内にある旧教員住宅のエコハウス化、そして森林資源を活用している地元企業と連携する持続可能な活動のアクションプラン。県名に「森」がつくのは青森県だけ。森林資源を持続可能な循環する地域資源として活用するための活動といったものでした。

結果、グランプリは逃したものの、見事下川町賞を受賞しました。下川町は北海道の町で、森林資源を活用することを町ぐるみで展開し、第 1 回ジャパン SDGs アワードで内閣総理大臣賞を受賞している町です。下川町

賞で賞金 20 万円、協賛社の日本航空(JAL)からは下川町の視察費用を頂きました、下川町の視察は、彼らがさらに深く学ぶための貴重な機会になることと思います。
表彰後のコメントでゴビンダさんが宣言した「We should to do it! We want to do it! And let us do it」から、今回の提案が必ず実現できる若いパワーを感じました。これからの彼らのアクションに期待したいと思います
文責:総合経営学部　教授　佐々木　豊志

○平成 29 年度学位記授与式が行われました。
3 月 16 日、本学正徳館において、平成 29 年度学位記授与式が行われ、総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部・薬学部の卒業生 153 名が幸畑の学び舎を巣立ちました。
はじめに、各学科長より卒業生の名前が読み上げられ、崎谷学長より各学部代表に学位記が授与されました。

学長式辞で、崎谷康文学長は、6 年前に青森大学の学長に就任し、全ての教職員とともに、教育研究活動の改革を進めながらみなさんのすばらしい成長ぶりを力強く感じ、今、青森大学のキャンパスに活気があふれているのは、みなさんが先頭に立って魅力を高めてきたことにあり、本当にうれしく誇りに思っていると述べ、社会を生き抜くために必要なことは逃げないこと、困難な課題に挑戦できる「冒険心」を生かすため、日頃から確かな訓練と学びと思考を積み重ねていくことが大切であることを、卒業生へのはなむけに贈りました。崎谷学長は、今年、青森山田学園が創立 100 年、青森大学が開設 50 年を迎えるにあたり、みなさんが青森大学の卒業生として誇りを感じてくださるように、ますますきらりと輝き、魅力を高めていくため、教育研究の充実に努めると述べて、お祝いの言葉を締めくくりました。

続いて青森山田学園岡島理事長よりご祝辞をいただき、最後に出席者全員で寺山修司作詞の校歌「若者よ若者よ」を斉唱して式を締めくくりました。

卒業生のみなさんの輝ける前途を心からお祝いします！！

○第4回青森大学教育研究プロジェクト成果最終報告会

3 月 15 日、今回で 4 回目となる教育研究プロジェクト成果最終報告会が開催されました。今年度の最終報告会では、研究推進部門で 11 件、教育改革部門で 4 件のプロジェクトの発表が行われました。

大学の研究レベルの指標の一つとなっている科学研究費等の採択件数が、近年、大幅に伸びるなど、青森大学の研究レベルは確実に向上しています。青森大学教育研究プロジェクトは、このような本学の研究推進の原動力の一つとなっており、この教育研究プロジェクトに採択された研究が、その後、科研費に採択されるケースがあるなど、本学の研究推進に貢献してきました。また、学生が参加している教育研究プロジェクトもあり、青森地域の課題に関連した研究や本学の教育の改善に資する活動が実施されるなどにより、本学の教育研究機関としての機能向上に重要な役割を担っています。

第4回青森大学教育研究プロジェクト成果最終報告会の発表内容は以下の通りです。

「研究推進部門」

1.「光学産業の形成・発展プロセスとそのメカニズム：北東北地域との比較研究」
　沼田郷　総合経営学部教授（書面報告）

２.「青森県における介護労働者の人員確保・労働環境の是正に関する実証研究」
　宮川愛子　社会学部講師

3.「後発医薬品のメーカーによる品質差異の比較研究」
　井沼道子　薬学部助教

4.「加齢関連代謝疾患を予防する生理活性物質の探索」
　大越絵実加　薬学部准教授

5.「糖加水分解酵素阻害剤の効率的合成」
　鈴木克彦　薬学部教授

6.「ジハロアルコールと種々の求核剤との付加反応の検討」
　中北敏賀 薬学部助教
7.「機能性身体症候群（FSS）モデル動物の確立」
　永倉透記 薬学部教授
8.「アンギオテンシンⅡ受容体遮断薬（ARB）の使用状況と脳出血リスクに関する検討」 三浦裕也 薬学部教授
9.「がんワクチン抗原としての GRP19 の有効性の検討」
　水谷征法 薬学部助教
10.「記憶機能制御に関する新規ノシセプチン結合タンパク質の解析」
　三輪将也 薬学部助教
11.「地域食品成分の生活習慣病予防効果の評価研究」
　益見厚子 薬学部教授

「教育改革部門」

12.「体験学習を通じた経験値を高めるための教育プログラムの開発」
　佐々木豊志 総合経営学部教授
13.「企業および業界研究を通じた学生の就業意識の向上プロジェクトー活きた経営学の体得ー」
　中村和彦 総合経営学部准教授
14.「学生の主体性に合わせた地域貢献・学内活動の構築・支援、および学修活動との連携に関する研究」
　櫛引素夫 社会学部教授
15.「青森いきいき脳健康プロジェクト 2017（“高齢社会対応”青森大学のブランディング）」 大上哲也 薬学部教授

○平昌オリンピックカーリング男子日本代表　山口剛史選手を激励！

3 月 16 日、崎谷康文学長が青森市で開催されたカーリング混合ダブルス選手権出場の山口剛史選手（平昌オリンピックカーリング男子日本代表　平成 18 年度経営学部卒※現在は総合経営学部）を訪問しました。

崎谷学長はオリンピックの熱戦を振り返り、今後の活躍を期待しますと激励の言葉を述べました。

山口選手は、日本初の銅メダルを獲得した女子代表の藤澤五月選手（LS 北見）とペアを組み、予選から決勝まで 8 戦全勝で初の頂点に輝き、4 月にスウェーデンで行われる世界選手権に日本代表として出場が決まりました。

○平成 30 年度青森大学入学式が開催されました

4 月 2 日、本学正徳館において平成 30 年度入学式が行われました。

今年度は学部生 302 名、編入生 8 名、合計 310 名の新入生を迎え、式辞では金井一頼学長が「夢と志を強く持って、自分のありたい姿を想像し、グローバルな視点とローカルの視点で、新時代に相応しい挑戦を応援します。自分の可能性を伸ばしながら、有意義な学生生活を過ごして下さい。期待します」と述べました。

新入生を代表し、総合経営学部 阿部健大さん(青森山田高等学校出身)は「先生方先輩方のご指導のもと、1 日も早く大学生活に慣れ、ここにいる友とともに、自ら学び、考え、行動し、新しいもの、ことを創っていきたいです」と力強く宣誓しました。

新入生は、期待と不安を胸に明日から大学生活をスタートさせます。

○MOS 世界学生大会 2018 大学・短期大学部門 PowerPoint で入賞しました！

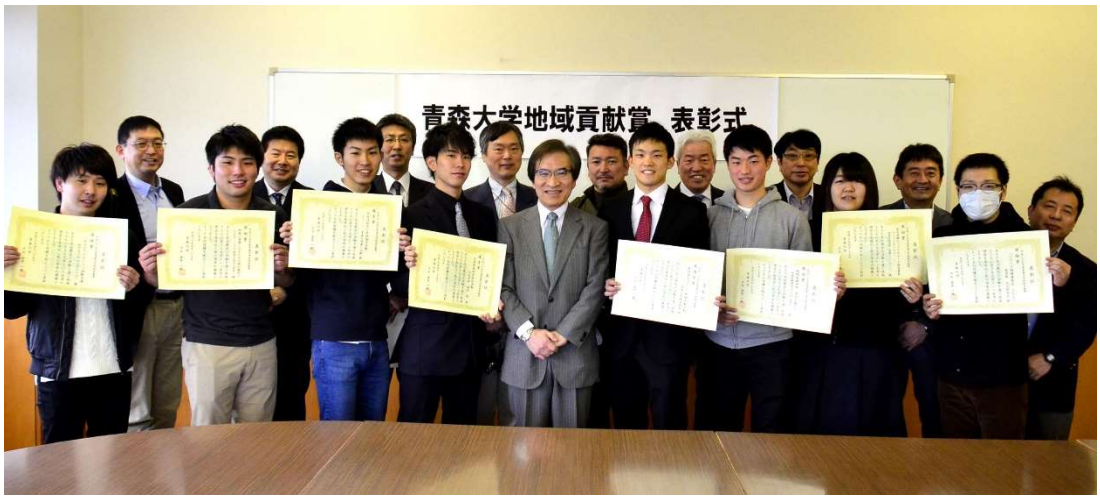
4 月 19 日、第 16 回 MOS(Microsoft Office Specialist)世界学生大会 2018 の各部門入賞者が発表され、日本全国から延べ 6 万 1 千人を超える学生がエントリーした中で、ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 4 年の平井佳太郎さんが大学・短期大学部門 PowerPoint で入賞しました。

6 月 24 日に表彰式が東京で行われ、アメリカ・オーランド(フロリダ州)で行われる世界大会に向けた日本代表選考の 2 次審査に進みます。

○平成 29 年度地域貢献賞表彰式

4 月 25 日、平成 29 年度地域貢献賞の表彰式が行われました。

青森大学にある知的財産を活用し、自分たちの活動を通して、地域の学びと交流を推進してきた 9 団体に対し、金井学長より地域貢献賞が手渡されました。続いて赤坂地域貢献センター長より「素晴らしい活動に感動しました。地域の皆さんは、学生諸君の新鮮な感性や行動力に大きな期待を寄せています。今年度も大いに活躍してください。地域貢献センターは全力で応援します。頑張ってください。」とお祝いの言葉が送られました。



■最優秀賞

新体操を活かした地域貢献活動

（男子新体操部）

http://aodaisintaisou.blog.fc2.com/

■優秀賞

忍者部地域活性化活動

（社会学部 福田創）

https://www.facebook.com/aodaininja/

学内活性化と地域協力活動

（Rasisa 青森大学楽しみ隊）

https://www.facebook.com/Rasisadesu/

■奨励賞

地域と連携した子どもの遊び場作り

（LFV ～人の可能性を広げる団体）

https://www.facebook.com/lfvdaze/

あおもりマルシェ支援活動

（graine）

※あおもりマルシェ・ページ

https://www.facebook.com/aomorimarshe/

高大連携キャリアサポート推進事業

（キャリサポサークル・地域貢献演習）

※青森県教育委員会・キャリサポ事業サイト

https://www2.hp-ez.com/hp/caresupo/

森の恵み再発見プロジェクト

（総合経営学部 沼田ゼミナール）

いきいき脳健康教室 2017

（薬学部 大上研究室）

地域貢献演習「第九を歌おう」

（地域貢献演習 H）

○第 1 回オープンキャンパスが開催されました

5 月 19 日（土）、今年度最初のオープンキャンパスが開催されました。

生憎の雨でしたが、多くの高校生と保護者の方々にご参加いただきました。

ご参加ありがとうございました。

今回は「知ってますか？大学の学び」のテーマに、各学部の模擬授業や学生とのフリートークなどを実施しました。

高校生の皆さんと保護者の方々は大学の雰囲気を感じているようでした。

青森大学第 1 回オープンキャンパス

～知ってますか？大学の学び～

日時：平成 30 年 5 月 19 日（土）10 時～

場所：大学 5 号館

【総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部】

・オープニング

・学生による大学紹介

・模擬授業

＜総合経営学部＞

小売業の新潮流　～移動販売車の社会的役割～

＜社会学部コミュニティ創生コース＞

“答えのない問題”の答え方　～災害対処ゲーム・クロスロードを体験しよう～

＜社会学部社会福祉コース＞

対人支援の基礎　～援助的なかかわりとは～

＜ソフトウェア情報学部＞

タブレットでロボットプログラミング

・保護者説明会

・個別相談コーナー

・学生とのフリートーク

【薬学部】

・オープニング

・薬学部実験「ペーパークロマトグラフィ」

・個別相談コーナー

・入試・特待説明

・薬学部で学べること

○寺山修司忌

5 月 25 日、今年は生憎の雨だったため、中庭校歌歌碑前ではなく 6 号館記念ホールで寺第 25 回寺山修司忌が行われました。学生・教職員、一般の方々を含む約 320 人が参加しました。

本学校歌の作詞が寺山修司氏という縁から、寺山氏の祥月である 5 月に毎年開催。寺山氏が本学の校歌をなぜ、どのようにして作詞したのかなどのエピソードが語られました。後半は、学生による寺山作品の朗読が行われ、校歌「若者よ 若者よ」を歌い式典を終了しました。（1962 年青森短期大学校歌。短期大学閉校に伴い 2013 年度より青森大学校歌）

○第 26 回　田舎館村田んぼアート　田植え体験に行ってきました！

本学の留学生と日本語サポーター学生を中心とした 19 名が、6 月 3 日に開催された田舎館村の田植え体験ツアーに参加しました。天気は快晴、気温とともに水温も暖かくなり絶好の田植え日和でした。初めて田植えをする留学生も多く、歓声や悲鳴をあげながら泥に足を取られないよう気を付け、1 本 1 本丁寧に苗を植えていました。

作業後に提供された豚汁とおにぎりを青空の元、皆でおいしくいただきました。苗の成長が楽しみです！

○「平成 30 年度あおりんプロジェクト」応募者プレゼンテーション実施しました！

6 月 1 日、昨年に引き続き今年も大募集した「あおりんプロジェクト」応募者によるプレゼンテーションを行いました。

【応募されたプロジェクト】

① 北東北きれいになろうプロジェクト
② 「第 3 回はこだて学生政策アイディアコンテスト」への挑戦
③ かかし制作・提供プロジェクト 2018
④ 忍者アクロプロジェクト
⑤ フォトモザイクアート制作プロジェクト
⑥ デジタルコンテンツコンクール
⑦ 白衣は燻色に染まる計画
⑧ 浪岡プロジェクト
⑨ キャンパス SDGs プロジェクト
⑩ 青大 50 周年、青森山田学園 100 周年切り絵プロジェクト

とても熱の入ったプレゼンテーションとなり、質疑応答も活発に行われました。

○第 2 回オープンキャンパス開催！

6 月 16 日、今年 2 回目のオープンキャンパスが開催されました。

前回の雨とは打って変わって今回はぽかぽか陽気で気持ちの良い天気となり、多くの高校生と保護者の方々にご参加いただきました。

今回のテーマは「未来の自分にワクワクする」。

各学部の模擬授業や学生とのフリートークに加え、学食体験も行われました。

・オープニング（学長あいさつ、全体説明）

・模擬授業

＜総合経営学部＞

スマートフォンの秘密～経営学で考える～

＜社会学部＞

高齢者にやさしい街づくりとは？

＜ソフトウェア情報学部＞

やってみよう！プログラミング

＜薬学部＞

アスピリンの合成

・学食体験

・学生とのフリートーク

○MOS 世界学生大会 2018 入賞式で表彰されました

マイクロソフトオフィススペシャリスト PowerPoint2013 部門で入賞した
ソフトウェア情報学部 4 年　平井　佳太郎さんが
6 月 24 日、東京国際フォーラムで行われた入賞式で表彰されました。

今回の MOS 世界学生大会 2018 は日本全国から前回よりも多い延べ 6 万 1 千人を超える学生がエントリーし、その中で入賞することができました。

地域貢献センター

1 月 17 日　地域貢献センター・幸畑団地地区まちづくり協議会共催「スマホ教室」開催

青森大学地域貢献センターと幸畑団地地区まちづくり協議会は 1 月 17 日、幸畑団地など青森市民の皆さんを対象に「スマホ教室」を開き、学生たちがスマートフォンの活用法や設定法、ネットに向き合うコツなどを提案・解説しました。「スマホ教室」は前年度に続く 2 度目の開催で、総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部の合同授業「キャリア特別実習Ⅰ・Ⅱ」の一環として、学生の学修活動と地域貢献、地域の皆さんとの交流を兼ねて実施しました。学生約 40 人と、幸畑団地などにお住まいの 11 人が参加しました。

1 月 20 日　公開フォーラム「北海道新幹線は『境』『絆』をどう変えるのか」開催

青森大学付属総合研究所と社会学部・櫛引研究室は 1 月 20 日、青森市の新町キューブで、青森商工会議所との共催事業「まちなかキャンパス」の一環として、公開フォーラム「北海道新幹線は『境』『絆』をどう変えるのか」を開催しました。運営には青森大学地域貢献センターも協力し、札幌や東京、仙台など県内外から約 70 人が参加して、1 年早く開業を迎えた北陸新幹線沿線の「県境を越えた交流、地域活動」について理解を深めました。愛知大学の三遠南信地域連携研究センターからもメッセージが寄せられました。

2 月 10 日　第 4 回「未来健康しあわせあおもりに生きるセミナー」開催

2 月 10 日、青森大学5号館 5101 教室において、第 4 回「未来健康しあわせあおもりに生きるセミナー」が開催されました。今回は「あなたの睡眠の悩みを解消する　睡眠と睡眠薬のお話」テーマに、善本正樹氏（協和病院院長・秋田県大仙市）に講演をして頂きました。約50名の参加者は講師の話に熱心耳を傾け、活発な質疑もありました。

2 月 10 日 「青森大学・冬のワンダーランド」が青森山田学園創立 100 周年・青森大学創立 50 周年記念イベントとして開催される。

青森市の冬のイベント「青森冬のワンダーランド」の一環として、青森大学生の有志6グループが 2 月 10 日、青森市・青森港の八甲田丸を会場に、イベント「青森大学・冬のワンダーランド」を繰り広げました。学生が制作したイグルー（北極圏の雪の家）などが多くの来場者でにぎわいました。今回のイベントは、青森市などが毎年、開催している催しに青森大学生が初めて参画する試みとして、2018 年度の青森山田学園 100 周年・青森大学 50 周年へのキックオフを兼ねて企画されました。イグルー・カフェ、忍者体験、雪遊び、コスプレ、オリジナルの「おやき」販売、写真撮影プロジェクト「フォトマップづくり」の 6 グループが参加しました。

2 月 7 日 「第 1 回 RISTEX プロジェクトシンポジウム 2018」(共催:青森商工会議所〈まちなかキャンパス事業〉)開催

2 月 7 日にアウガにおいて、「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」をテーマに、高齢者の詐欺被害を防ぐための研究及び実装に関するシンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、本学と共同して研究・実装を進める秋田県立大学、京都府立医科大学、慶應義塾大学医学部などの研究者や青森県警、青森県庁(青森県消費者協会)、青森県生活協同組合連合会などの協力機関の関係者らによる発表とパネルディスカッションで構成されるもので、今年が2回目となりました。今回のこのシンポジウムは、RISTEX のプロジェクトとして開催される最初のものとなるため、第 1 回 RISTEX プロジェクトシンポジウムとされました。シンポジウムでは心理学等の研究者、警察、生活協同組合などの幅広い関係者が、今後 3 年間にわたり展開されるプロジェクトの研究や活動に関する取組みなどについて説明を行い、意見交換が行われました。

第1回 RISTEXプロジェクト シンポジウム2018

「高齢者の詐欺被害を防ぐ しなやかな地域連携モデルの研究開発」 ―高齢者の詐欺被害減少のための活動―

RISTEX 社会技術研究開発センター
Research Institute of Science and Technology for Society

【日　時】平成３０年 2月 7日（水）13：30～16：00
13：00～　受付開始

【場　所】アウガ５階　AV多機能ホール
青森市新町1-3-7　TEL:017-776-8800

【参加費】無料

【主　催】青森大学

【共　催】青森商工会議所（まちなかキャンパス事業）

【問合先】017-738-2001（内線761）
研究開発プロジェクト事務局

まちなかキャンパス

単位認定講座
あおもり県民カレッジ
この講座は、あおもり県民カレッジの単位として認められます。

事前の申込は不要です。
当日会場へ直接おいでください。

2 月 7 日 「道の駅いまべつ」で、社会学部学生、活動成果を報告

青森大学と「道の駅いまべつ」の連携協定に基づいて、本年度、同駅の振興策の検討に取り組んできた社会学部生 2 名が 2 月 27 日、同駅で報告会を開き、レンタサイクルの活用や情報発信の強化を柱とする提言を行いました。また、試作した「みんなで作るサイクリング用マップ」を披露しました。

青森大学は 2015 年 10 月、国土交通省青森河川国道事務所の協力で「道の駅いまべつ」と連携協定を結び、学生たちが同駅の利用促進策の企画検討などに取り組む「企画連携型」の活動を展開してきました。本年度は社会学部・櫛引ゼミの對馬有希さん（4 年）と佐々木圭介君（3 年）が、フィールドワークや聞き取りを重ね、集客力や利便性の向上に関する検討を行いました。

2 月 17 日 「第 5 回 青森地域フォーラム」が開催される

2 月 17 日、青森市の市福祉増進センター「しあわせプラザ」において、青森市、平内町、三戸町、青森商工会議所との共催により、本年度、本学の地域貢献の活動を報告する「第 5 回青森地域フォーラム」を開催されました。教員と学生、そして幸畑地域の活性化に取り組む「幸畑ヒルズイノベーション」の張山英和氏が、13 件の事例報告を行い、市内外から参加した約 80 人が本学の広範な取り組みに理解を深めました。

開会に先立ち、崎谷学長が「地域とともに生きる大学」の理念を紹介した後、青森市の前多正博副市長、平内町の船橋茂久町長、三戸町の松尾和彦町長からごあいさつをいただきました。

教員からは、認知症支援（薬学部・大上哲也教授）、平内町ハクチョウのまち再生事業（社会学部・藤公晴教授）、青森大学薬学部の活動（三浦裕也教授・学部長）、イグルー製作を通じた地域資源活用（総合経営学部・佐々木豊志教授、喜來大智さん）、青森大学オープンカレッジのあゆみ（矢萩正人オープンカレッジ所長・ソフトウェア情報学部教授）について、取り組みを報告しました。

学生からは、青森市・油川地区のかかしロード参加（ソフトウェア情報学部・天内葉月さん）、同市・柳町商店街活性化プロジェクト（青森大学沼田チーム・石井涼太さん、吉沢裕希さん、鈴木優里さん、奥山魁さん）、道の駅いまべつとの連携と提言（社会学部・對馬有希さん、佐々木圭介さん）、忍者部の活動（ソフトウェア情報学部・横井小春さん）、幸畑地区のフクロウ・プロジェクト（社会学部鈴木研究室チーム・佐藤朋輝さん、菊池裕仁さん、村上竜斗さん）、はこだて学生政策アイデアコンテストへの参加・入賞報告（総合経営学部・西館彩寧さん、工藤悠佳さん、横田祐美さん、三浦紫苑さん）の発表がありました。

定員 100 名
参加無料

第５回
青森地域フォーラム
地域と大学が拓くあおもりの明日

青森大学は「地域とともに生きる大学」を目指し、地域の皆様と連携し、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。青森地域フォーラムは、本学と青森市・平内町・三戸町及び関連団体等が連携して行ってきた地域貢献活動の年度ごとのまとめとして開催しており、今年度で５回目を迎えました。平成２９年度の成果を報告し、本学と自治体などが連携して実施している地域貢献の内容を広く地域の方々と共有するとともに、来年度以降へ向けて本学が担っている役割や展望について議論し、理解を深める機会としたいと考えております。

日程 平成30年2月17日(土)
13:00～15:45（受付 12:30～13:30）

会場 福祉増進センター「しあわせプラザ」（3F 大会議室）
青森市本町4丁目1番3号

●プログラム

13:00～13:15 開会（司会：青森大学総合研究所 副研究所長 井上 隆）
主催者あいさつ：青森大学学長 崎谷 康文
ご あ い さ つ：青森市長 小野寺 晃彦
平内町長 船橋 茂久
三戸町長 松尾 和彦

13:15～14:15 発表
「青森認知症支援プロジェクト 2017」（薬学部教授 大上 哲也）
「平内町ハクチョウのまち再生事業：現場で一緒に考え動く学びを目指して」（社会学部教授 藤 公晴）
「地域とともに生きる青森大学薬学部」（薬学部教授 三浦 裕也）
「地域資源の活用－イグルー製作を通して見えてきたもの－」（総合経営学部教授 佐々木 豊志）
「青森大学オープンカレッジのあゆみ」（オープンカレッジ所長 ソフトウェア情報学部教授 矢萩 正人）

14:15～14:20 休憩

14:20～15:10 発表
「かかしロード参加と油川地区との交流について」（ソフトウェア情報学部 天内 菜月 他）
「柳町商店街活性化プロジェクト」（青森大学沼田チーム 石井 涼太・古沢 祐希・鈴木 優里・奥山 魁）
「道の駅いまべつとの連携協定にもとづく振興への提言」（社会学部 對馬 有希・佐々木 圭介）
「創部２年目の忍者部活動報告」（ソフトウェア情報学部 横井 小春）
「明日へはばたく幸畑地区～青森市の鳥ノクロウとともに～」（鈴木研究室チーム 佐藤 朋輝・柏沈 裕仁・対上 竜斗）
「はこだて学生政策アイデアコンテスト活動報告」（総合経営学部 西館 彩華・工藤 悠佳・横田 祐美・二浦 紫苑）

15:10～15:30 発表
「幸畑ヒルズイノベーションの活動について」（幸畑団地地区まちづくり協議会 張山 英和）
「幸畑ヒルズイノベーションの活動に関する調査と考察」（社会学部 工藤 亮子）

15:30～15:40 質疑応答

15:40～15:45 閉会のあいさつ：青森大学学長 崎谷 康文

●主催：青森大学（地域貢献センター） ●共催：青森市、平内町、三戸町、青森商工会議所
お問い合わせ：〒030-0943 青森県青森市幸畑２丁目3-1 青森大学 地域貢献センター
TEL.017-738-2001 FAX.017-738-0143

3 月 17 日 「第 5 回「未来健康『しあわせあおもり』に生きるセミナー」開催

3 月 17 日青森新都市病院3F講堂において、「第 5 回「未来健康『しあわせあおもり』に生きるセミナー」が開催されました（主催：青森大学薬学部、共催：医療法人雄心会　青森大学脳と健康科学研究センター）。テーマは「口腔ケアと健康生活」、講師は高谷和彦氏（一般社団法人青森市歯科医師会会長）でした。約 40 名の参加者は講師の話に熱心に聞き入っていました。そして活発な質疑もありました。

3 月 22 日　青森学術文化振興財団より平成 30 年度助成金交付内定を頂く

公益社団法人 青森学術文化振興財団の平成30年度助成金交付内定式がラ・プラス青い森 2F メープルにて開催され、薬学部は、以下の 4 件の助成金内定を頂きました。地域とともに生きる大学として、社会に貢献する活動に取り組んで参ります。

【公開講座開催事業】

1. 大上哲也教授 「公開講座～青森いきいき脳健康教室～」(288 千円)

【地域の振興に係る研究事業(一般枠)】

2. 三浦裕也教授 「健康意識向上に対する地域医療健康支援効果の研究 ー薬学生によるセルフメディケーション発信の有用性-」(300 千円)

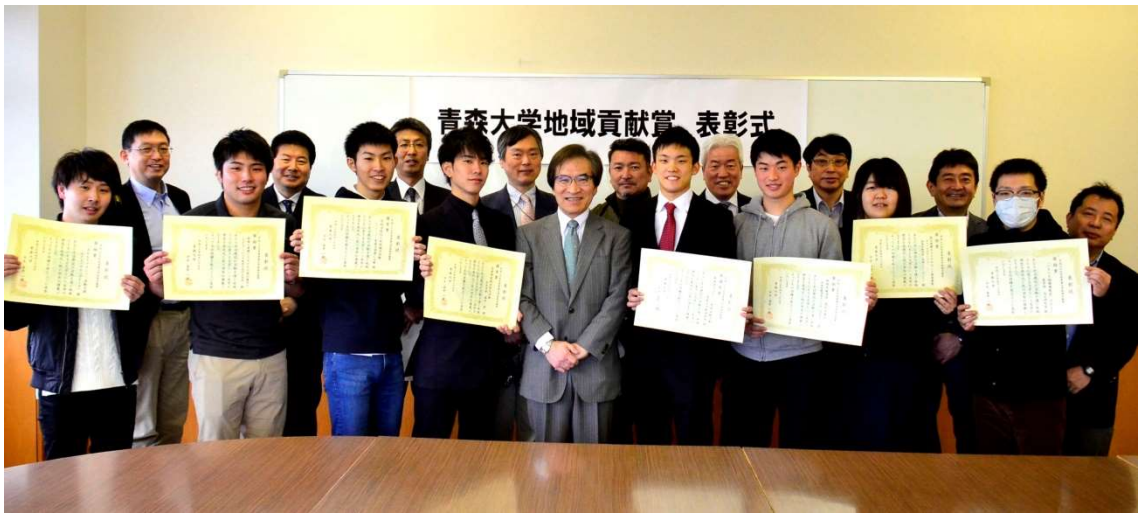
3. 清川繁人教授 「陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究3」(285 千円)

【地域における学術・分化の進行にかかる事業】

4. 大上哲也教授 「第5回青森オレンジ文化祭～認知症の方々の作品展示会～」(151 千円)

4 月 25 日 「平成 29 年度地域貢献賞表彰式」開催

平成 29 年度地域貢献賞の表彰式が 4 月 25 日、本学第 7 会議室で行われました。青森大学にある知的財産を活用し、自分たちの活動を通して、地域の学びと交流を推進してきた団体として、9団体に金井学長から地域貢献賞が手渡されました。受賞団体・個人へ赤坂地域貢献センター長から、「素晴らしい活動に感動しました。地域の皆さんは、学生諸君の新鮮な感性や行動力に大きな期待を寄せています。今年度も大いに活躍してください。地域貢献センターは全力で応援します。頑張ってください」と祝いの言葉が送られました。



【受賞団体と受賞活動】
◎最優秀賞
・「新体操を活かした地域貢献活動」：男子新体操部
◎　優秀賞
・「忍者部地域活性化活動」：忍者部
・「学内活性化と地域協力活動：Rasisa 青森大学楽しみ隊
◎奨励賞
・「地域と連携した子どもの遊び場作り」：　LFV ～人の可能性を広げる団体
・「あおもりマルシェ支援活動」：graine
・「高大連携キャリアサポート推進事業」：キャリサポサークル・地域貢献演習（※青森県教育委員会・キャリサポ事業サイト）
・「森の恵み再発見プロジェクト」：総合経営学部 沼田ゼミナー
・「いきいき脳健康教室 2017」薬学部 大上研究室
・「地域貢献演習「第九を歌おう」：地域貢献演習 H
5 月 19 日（土）「第 11 回学びの森市民セミナー」が開催される

5 月 19 日 「第 11 回学びの森市民セミナー」開催
5 月 19 日、本学記念ホールで「第 11 回学びの森市民セミナー」が開催されました。このセミナーは青森明の星短期大学と共催で、毎年 5 月と 10 月の 2 回両キャンパスで交互に開催し、両校の学生が相手方のキャンパスを訪れる連携型のセミナーで、今年で 6 年目に入ります。今回は、日本血液製剤機構理事の脇坂明美氏に「血漿分画製剤 ― 医療を支える「白い血液」」という演題で講演をしていただきました。参加者は 220 名、青森明の星短大から 30 名、青森高校からも 10 名ほどの参加がありました。

6 月 30 日 「第 6 回 未来健康『しあわせあおもり』に生きるセミナー」開催

6 月 30 日、青森新都市病院 3F 講堂において、「第 6 回 未来健康『しあわせあおもり』に生きるセミナー」が開催されました。今回のセミナーは「そもそもクスリはなぜ効くんだろう」のテーマで青森大学薬学部長　三浦裕也教授の講演が行われました。

その他、連携推進会議等

4 月 23 日　地域貢献センター会議

4 月 27 日　地域貢献委員会

5 月 10 日　平内町（政策企画課）との連携推進会議（於：平内町）

5 月 10 日　青森中央高校課題研究発表会に教員派遣（田中、櫛引、宮川、石川）

5 月 11 日　青森北校との連携推進会議（於：青森北高校）

5 月 18 日　青森市企画調整課との連携推進会議（於：青森市）

6 月 14 日　青森県「平成 30 年度学生発未来を変える挑戦プロジェクト」採択。
岩淵護（総合経営学部准教授）

6 月 27 日　講演：「生き方講演」（平内東平内中学校）、鳥谷部 勉（青森山田学園本部）

学習支援センター

学習支援センターでは、平成29年度は以下の5事業に取り組みました。また、平成30年度は6月に開いた運営委員会で従来の事業を3事業に取りまとめて確定し、センター員が分担して活動に取り組んでいます。センター員一人ひとりは、「学生中心の大学」の機能の充実に関わる諸活動に主体的に携わっています。平成30年度の事業遂行に際しても、昨年度と同様、学生の支援や教学IR活動を、教務委員会、学生委員会、FD委員会といった学内他組織との連携を図りながら、進めていくこととしました。

【平成29年度】

A.　意欲ある学生向け支援（学生参画の推進、学習環境の整備など）

B.　課題を抱えた学生向け支援（学習（学生）相談のしくみ整備、学習支援など）

C.　IR（学内の教学に関する情報収集・分析など）

D.　学内外への広報（センター活動の学内周知、学外への発信など）

E.　活動の効率化（情報化の推進など）

【平成30年度】

A.　意欲ある学生向け支援（学内外の活動への学生参画推進、学生参画活動の学内外への広報）

B.　課題を抱えた学生向け支援（相談窓口の開設、学習支援、ポータルシステムの活用推進）

C.　学修及び満足度に関する調査の実施・集計（アセスメント・ポリシーへの対応状況把握、学生の意見集約及びその対応状況のフィードバック）

［意欲ある学生向け支援］

(1)　学生による学修環境改善に向けた活動（2月14日、集いのスペース621）

12月20日に実施した「第1回 集まれ！！青大生！！」で出された意見を整理し、今後の活動方法について検討することを目的として、「第2回 集まれ！！青大生！！」を開催した。当日は、第1回の参加者を中心に、学生9名と教職員7名が参加し、「すぐに取りかかるべき事柄」と「方法を考える」事柄について、それぞれ意見を集約しました。また、教職員より大学が現在進めている計画などについて説明が行われました。

今後も、学生の協力を得ながら学修環境の改善に向けた作業を進めることを確認しました。

(2)　地域と関わる科目の運用支援

青森大学教育研究プロジェクト教育改革部門に「学生の主体性に合わせた地域貢献・学内活動の構築・支援、および学修活動との連携に関する研究」が採択されました。このプロジェクトは地域貢献センターと協働して、当該2科目と「社会学演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」を主な対象として、学生の主体性に合わせた地域貢献活動の構築・改善などの活動を推進しました。

特に「キャリア特別実習Ⅰ・Ⅱ」では、学外・学内の活動に積極的な学生を対象に、地域の方々や学内教職員のとのつながり構築支援と、学生同士の交流の機会を設ける活動を推進しました。

［課題を抱えた学生向け支援］

(1)　学習相談窓口の開設

これまでと同様、学生委員会と連携した「学生カウンセリング」、「障がい学生支援相談窓口」と、「センター員窓口」の3通りに分けて、1月以降合わせて17回窓口を開設した。年度末と年度開始時には開設しなかったため、回数は少なめとなっています。「センター員窓口」には教員と職員が分担して対応し、学修（卒業研究の進め方、進級条件など）と学生生活（転学部、部活動、学内での人間関係など）の両方で、合わせて9件の利用がありました。

(2)　「学びの道しるべ」の改訂

平成25年度に開始した「青森大学基礎スタンダード」科目群に対応し、科目群の改善などに合わせて初版（平成26年度）、第2版（平成28年度）と版を重ねてきた「青森大学基礎スタンダードテキスト必携 学びの道しるべ」の第3版を作成しました。
今回の改訂に際しては、①新たなディプロマ・ポリシーへの対応、②「基礎演習」の授業資料の追加、③本学の地域活動に関する記載の更新・拡充を主眼としました。

［IR］

(1)　平成29年度後期「学修時間・学修行動調査」の実施

教務委員会と連携し、1月15日から1月29日にかけて、全学部全学年を対象とした悉皆調査を実施しました。前期調査とほぼ同数の744名（70.8%）の回答が得られた。分析結果を3月に全教職員に配信するとともに、大学Webページに掲載しました。さらに、回答の中から、学修環境をより良くするための意見やアイデアを取り出して資料にまとめ、教職員間で共有しました。

本調査は、平成25年度前期より実施し、その後、年に2回（前期、後期）ずつ実施してきたものです。前々回までは4学部の1～3年生を対象とした抽出調査でありましたが、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに対する実態把握を強化するため、前回から全学部全学年を対象とした悉皆形式に切り替えました。

なお、平成30年度も、改善を加えながら調査を実施する予定です。

(2)　ジェネリックスキル修得状況の調査、分析

学内の複数の組織（教学改革タスクフォース、教務委員会、キャリア支援チーム・就職課）と連携して、株式会社河合塾と株式会社リアセックが共同開発したPROG試験を、昨年度に引き続き、全学部1年生と3年生（薬学部以外）を対象として実施しました。この試験は昨年度より導入したもので、主な目的は、アセスメント・ポリシーの「学生個人の評価の方法」に記載されている「3つの力」に対応したルーブリックの到達度を把握することです。

PROGでは、マークシート形式の試験を行った後、受験者一人ひとりに自身の修得状況をまとめた冊子を配布し、これを用いた解説会が行われます。1年生は、4月4日に試験を行い、4月27日に解説会を実施しました。3年生は、総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部では、5月18日試験を実施し、6月29日に解説会を実施しました。薬学部3年生向けの試験と解説会は、現在日程を詰めているところです。

受験者のデータに関して、現在は統計分析を進めており、今後、アセスメント・ポリシーに照らした個別の学生の到達度を測るための方法の整備につなげます。

(3)　学内調査で得られた「学生の声」に対する諸組織の回答集約

平成29年度前期「学修時間・学修行動調査」の設問「学修環境をより良くするために、あなたの意見やアイデアを自由に書いてください」に記載された学生の意見・要望・アイデアに対して、関連組織の「学生への回答」を取りまとめ、学内に掲示しました。

今回は、多数寄せられた中から、「授業の方法」、「授業の内容」、「学生サポート」、「施設・設備」のそれぞれについて5件ずつを選び、学内関連組織（教務委員会、教学改革タスクフォース、FD委員会、事務局、及び本センター）に回答作成を依頼しました。

各組織からの回答を本センターでまとめ、学内に掲示するとともに、(1)の意見一覧とともに、教職員間で共有しました。

(4)　「私学高等教育研究所 第64回公開研究会」参加

平成29年10月6日に行われた当該研究会の参加報告が、1月31日に開かれた第1回IR推進室会議の中で行われました。他大学の取組みのうち、とくに福岡工業大学や京都光華女子大学の取組みが参考になったとの話がありました。

報告を受け、参加者からデータマップ作成や学内諸組織と連携したIRの取組み強化が必要との意見が出されました。

(5)　「キャリア・生活指向と就業先選択に関する調査」の受託実施

「青森COC+推進機構」での活動の一つとして実施された当該調査について、青森県立保健大学の依頼に基づき全学部最終学年の学生を対象として調査を実施した。全体で79名より回答が寄せられ、すべて依頼元に提出しました。

青森大学オープンカレッジ

［平成30年度青森大学オープンカレッジ市民大学講座開校］

平成30年度オープンカレッジ市民大学講座の開講式と第１講が4月13日、本学622教室で行われた。今年度は昨年の倍近い79人の受講生が集まりました。

開講式では、矢萩正人所長が「今年は本大学の母体である青森山田学園が100周年を迎えます。このめでたい年に79人の受講生が集まり、大変うれしく思います。11月までの20回の講座をより楽しく学んで下さい」と主催者を代表してあいさつしました。続いて、金井一賴本学学長が「ワクワクするように勉強を楽しもう」と呼び掛けて、祝辞を述べました。

このあと、38人の新入受講生紹介後、中﨑良次さんが新入生を代表してあいさつをしました。市民講座運営スタッフである教職員の紹介、講座説明と続き、最後は出席者全員で青森大学校歌「若者よ若者よ」を斉唱しました。

本年度の青森大学オープンカレッジ市民大学講座は、以下の20講が予定されています。

1	4月13日（金）	開講式 NHK受信料と最高裁判決について 青森大学名誉教授　平井　卓　氏	青森大学６２２教室
2	4月27日（金）	知るとおもしろい―なるほど天気予報 ABA弘前支社 報道制作部　石塚　絵里子　氏	アウガ５階ホール
3	5月18日（金）	加齢でも　いつまでも華麗に動く--- 打倒ロコモティブ 青森新都市病院 副院長　末綱 太 氏	アウガ５階研修室
4	5月25日（金）	青森県立美術館の魅力 青森県立美術館 館長　杉本　康雄　氏	アウガ５階ホール
5	6月1日（金）	美しく逝きたい～仏教のこころに学ぶ 昭和大仏・青龍寺 住職　織田　隆玄　氏	アウガ５階ホール
6	6月8日（金）	淡谷のり子と淡谷悠蔵 青森県立郷土館 主任学芸員主査 太田原　慶子 氏	アウガ５階研修室
7	6月22日（金）	知って得するシニア時代の食と栄養 青森山田高校調理科 教諭　梅田　弥昇彦　氏	アウガ５階ホール
8	7月6日（金）	さくらの心 ～ 日本一の桜を守り続けて 弘前公園緑地課「桜守」主査　橋場　真紀子　氏	アウガ５階ホール

9　7月20日（金）　オーマの休日～マグロのまち本州最北端・大間町を訪ねて　現地ガイド野外学習10　7月27日（金）　連続ドラマの舞台うら・番組制作の裏話教えます
アウガ５階研修室
NHK青森放送 局長　熊井　秀哲　氏
11　8月24日（金）　シニアからのストレッチ＆リズム体操　青森大学第２体育館
青森大学事務局 参与　神　孝寿　氏
12　8月31日（金）　笑って免疫度アップ～「津軽弁の日」に携わって３０回　アウガ５階ホール
ラジオパーソナリティ　青山　良平　氏
13　9月7日（金）　吹雪の惨劇～八甲田雪中行軍遭難事件　アウガ５階研修室
八甲田雪中行軍遭難資料館・幸畑墓苑ガイド　加藤　幹春　氏
14　9月21日（金）　青森山田学園百周年に寄せて～創立者・山田家、木村家の教育実践
アウガ５階ホール
青森山田学園理事・青森大学事務局長・学長補佐・准教授　木村　雅大　氏
15　10月5日（金）　津軽の社寺を訪ねて～大鰐町大円寺、平川市古懸不動尊　住　職
野外学習
16　10月19日（金）みんなで楽しく歌おう聴こう～歌唱指導＆ミニコンサート　アウガ５階ホール
青森大学ソフトウェア情報学部 准教授　白岩　貢　氏
17　10月26日（金）ファミリアとレナウン　アウガ５階研修室
青森大学総合経営学部 教授　森　宏之　氏
18　11月9日（金）　もっと長生きしよう～くすりと健康の話　アウガ５階研修室
青森大学薬学部 部長　三浦　裕也　氏
19　11月16日（金）うるわしの島・台湾～私のふるさと　アウガ５階ホール
青森大学オープンカレッジ副所長・教授　江川　静英　氏
20　11月30日（金）聞き上手と話し上手～より良い人間関係のために　青森大学６２２教室
青森大学オープンカレッジ副所長・教授　船木　昭夫　氏
修了式

[市民講座第1講]
開講式終了後、休憩を挟んで、第１講義が行われました。「NHK受信料と最高裁の判決について」というテーマで平井卓本学名誉教授が１時間に渡って、判決に至る経緯や問題点を分かりやすく解説しました。特に、マスコミ報道によるNHK側の受信料の徴収への取組みは皆様と契約して成り立っている点などを強調していました。

［市民講座 第2講 － 石塚絵里子ABA青森朝日放送報道部記者を招いて － ］

オープンカレッジ市民大学第2講が4月27日、青森市駅前のアウガ5Fホールで行われた。72人が出席しました。講師には、石塚絵里子ABA青森朝日放送弘前支社報道部記者を招き、1時間30分にわたり、「空の不思議」をテーマに講演が行われました。

気象予報士である石塚さんは、同僚の取材事故をきっかけに、気象予報士の試験に挑戦。気象条件から未然に事故を防ぐためにその資格を生かしたいとの思いからだそうです。

講義の中では、春夏秋冬の気象条件を解説しながら、まず、桜の開花が早まったのは気温が６月並みであたたかい日が続いた点と指摘。開花から3日で満開になったそうです。今年の弘前のさくらまつりの映像も流しました。

また、夏日は気温25度以上、真夏日は30度以上、猛暑日は35度以上と説明しました。お天気クイズでは、受講生と番号当てスタイルで、てるてる坊主のいわれや虹の色当てなどを出題し、盛り上がっていました。

［市民講座 第3講 － 末綱太青森新都市病院副院長を招いて－ ］

「加齢でも　いつも華麗に動く・・・打倒ロコモティブ」をテーマに、オープンカレッジ市民大学第3講は、5月18日、末綱太青森新都市病院副院長（脊椎脊髄センター長）を招いてアウガ5F研修室で行われ、70人が参加ししました。

末綱先生は大分県出身で、高校ではフォークソンググループ「かぐや姫」のメンバー・伊勢正三さ

んと同級生との紹介がありました。講演の中では、「継続は”筋力”なり」を強調し、運動量の重要性を説いていました。具体的には転倒予防のため、スクワットやウォーキングの正しい負荷のかけ方を説明しました。また、長寿の要因は(1)筋力、(2)バランス能力、(3)歩行速度にある、とアドバイスし、全国の100歳以上は昭和38年では153人だったのが、平成29年度の統計で67,826人になっている、と報告しました。

［市民講座 第4講 － 青森県立美術館の魅力 － ］

オープンカレッジ市民大学第4講が5月25日、アウガ5Fホールで開かれました。この日の講師には、杉本康雄青森県立美術館館長を迎え、1時間30分の講義が行われた。受講生71人が参加し、「青森県立美術館の魅力」を学びました。

まず、館長になって4年目という杉本氏は、2006年に開館した美術館は、建物自体白一色で統一したのは、青森の雪のイメージを表したと説明。また「美術館は、青森県の芸術風土を世界に向けて発信することや、優れた芸術を体感する目的があるが、子どもの感性と創造力の育成に力を注いでいる」とアピールしました。具体的には、学校向けの「鑑賞ツアー」を行い、感性を磨くために実施しているとのことでアトリエ開放や演劇祭、映画祭なども企画しているそうです。このため、市民のボランティアを募集し、運営に生かしているということです。

最後に、始まったばかりの「フランスと日本」展の内容をPRし、教科書で学んだことのある有名なモネ・シャガール・ピカソなどの美しい作品を紹介しました。

［市民講座 第5講 － 美しく逝きたい～仏教のこころに学ぶ － ］

昭和大仏で有名な青龍寺の織田隆玄住職を講師に招き、オープンカレッジ市民大学第5講が6月1日、アウガ5Fホールで開かれました。この日は、受講生67人が参加しました。「美しく逝きたい～仏教のこころに学ぶ」をテーマに、織田住職は（１）これまで美しく生きてきたか？〈人生を振り返る〉（２）余生を美しく生きる〈肩書き、学歴、財もない一人間として〉（３）美しく逝きたい〈終活〉・・・を3つに分けて講義しました。

この中で、「仏教の教えは、大切にしたい。日本の精神文化であり、こころの拠り所である」と述べ、「人は一人では生きられない。家族・友人・知人みんなに助けられて生きており、お蔭様の心が生まれている」と強調しました。

また「余生を美しく生きるには肩書き、学歴、財も関係ない一人間として遺族の心にも思いを尽くすこと」といい、「美しく逝くためには、今をどう生きるかであり、俯瞰的に行動してみること。罪を作らないことである」と、説いていました。

最後に、死は人生の卒業式。卒業写真（遺影）は10年若いものを使ってもいい。最後は「仰げば尊し♪」で「いざさらば」を言えばいいと、アドバイスしていました。

［市民講座 第6講 － 淡谷のり子と淡谷悠蔵 － ］

青森市名誉市民で歌手の淡谷のり子とその叔父で代議士を務めた淡谷悠蔵先生をテーマに、オープンカレッジ市民大学第6講が6月8日、アウガ5F研修室で開かれました。講師には、青森県立郷土館主任学芸主査の太田原慶子先生が招かれ、出席した受講生61人に淡谷家の生家の資料をもとに2人の生い立ちや生涯を語ちました。

講義の中で太田原先生は、青森を離れ歌手として生きるのり子の心の支えとして悠蔵の存在が大きかったと主張。また、叔父と姪というより、10歳離れた兄と妹のような2人だったとも紹介しました。お互い「からきず（からきじ）」と呼び合うも、深く尊敬し信頼していたとも述べました。

受講生たちは、パワーポイントによる多くの写真紹介があり、分かりやすかったと、語っていました。悠蔵先生とその当時の 文化人（芥川龍之介、武者小路実篤など）との交流の興味深かったことやのり子の海軍慰問の話しには、涙を誘っていました。終了後のランチ会には38人が参加し、受講生同士なごやかに会食をしていました。

［みちのく散歩みち 第1講 － 弘前藩の歴史/産業を学ぶ － ］

3年ぶりに復活したオープンカレッジ「みちのく散歩みち」が5月17日に行われました。第１講は「弘前藩の歴史/産業を学ぶ」をテーマに弘前市岩木地区で行われました。受講生21が参加し、今年4月オープンしたばかりの高岡の森・弘前藩歴史館やJAアオレンジュース工場などを見学しました。この日は昨夜までの雨も上がり、マイクロバスに揺られながら田植え前の津軽路を走りました。午前中は、りんごの加工量・販売量で国内最大級のJAアオレンジュース工場を見学。試飲コーナーもあり、輸入のりんごジュースとアオレンの飲み比べも行われました。密閉搾りの特許を取得したジュースは、添加物なしでまろやかな味でした。その後、東京ドーム位の広さを持つ、施設の説明を受けました。

午後からは、弘前藩4代藩主・津軽信政公を祀る高照神社を参拝し、すぐ隣に今年4月オープンしたばかりの弘前藩歴史館を見学しました。ここには、高照神社宝物約5千点の内、64点を展示。複製された信政公の甲冑や刀剣類など貴重な史料を目にすることができ、受講生らは感動していました。

［みちのく散歩みち 第2講 － 蝦夷のリーダーと古墳文化を知る － ］

「蝦夷のリーダーと古墳文化を知る」をテーマにオープンカレッジみちのく散歩みち第2講が6月14日、おいらせ町の「阿光坊古墳」などを巡りました。受講生24人が参加しました。雨上がりのこの日は、マイクロバスに乗車し、青森から約２時間半かけて、おいらせ町の国指定史跡（平成19年指定）阿光坊古墳に到着。これに先だって、昨年開館した「古墳館」を見学し、7世紀前半から9世紀末の構

築古墳から出土した勾玉や蕨手刀などボランティアから説明を受けました。その後、約130基の古墳がある高台の現地へ赴き、復元された古墳群を巡りました。壮大な面積の中に、当時のリーダー（豪族）がいたことが想像できた。その後、昼食は三沢市にある「星野リゾート・青森屋」でとり、なごやかに交流を深めました。帰路は、十和田湖に寄り、湖畔のレストランでコーヒータイムや散策を楽しみました。

総　合　経　営　学　部

［著書、論文、研究ノート、評論・書評、翻訳、寄稿、調査報告書など］平成 30 年 1 月～

飛鳥由美子　「青森県内税理士事務所への『職員の採用と教育、および関与先への関与形態』に関するアンケート調査結果報告」(2018 年 2 月 6 日)　「会計学の必要性を認識させるアクティブラーニングに関する一考察」『研究紀要』青森大学学術研究会, 第 40 巻第 3 号, pp. 1-22.

岩淵　護　「ネットワークと戦略を駆使する新しい仕組みーネットワーク戦略、取引費用からとらえた統合と調整」『研究紀要』第 40 巻第３号（青森大学）、pp. 127 - 214、（2018 年 3 月）

岩淵　護　「スリランカの持続的成長から捉えたリンケージ・フレームワークー東南・南アジアにおけるモノづくりネットワークより捉えたリンケージバリューという事象」『アジア産業研究センター年報（文部科学省　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）メコン諸国における経済統合の中小企業への影響についての研究ー「ASEAN サプライチェーン」の観点から』第 4 号（専修大学社会知性開発研究センター）、pp. 29 - 32、（2018 年 3 月）

佐藤静香　「韓国における大卒ホワイトカラーの雇用管理ー財閥系列企業Ｓ化学の事例」青森大学総合経営学部教員研究報告会（2018 年 2 月 6 日）

中村和彦　「IT 時代における経営情報システムの実証的研究～各業界における代表的事例の特質を中心として～」『研究紀要』青森大学学術研究会、pp, 29-50.

松本大吾　「青森県内税理士事務所への『職員の採用と教育、および関与先への関与形態』に関するアンケート調査結果報告」(2018 年 2 月 6 日)

森　宏之　「ヘルスケアリート施設の現況と課題」『年報　財務管理学会第 29 号』日本財務管理学会（2018 年 5 月）

［平成 29 年度経営学部経営学科学生研究発表大会］

平成 30 年 1 月 29 日（月)、平成 29 年度総合経営学部経営学科学生研究発表大会が、6 号館メモリアルホールにおいて開催された。4 年生が専門ゼミナールで学んだ成果について発表が行われ、活発な質疑応答が行われた。

澁谷泰秀副学長を審査委員長とする 3 名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞以下各賞が次のように選ばれた。

【最優秀賞】

・経 26040　中嶋　潤　（井上ゼミナール）

「オリンピックの商業化と東京オリンピック」

【優秀賞】

・経 26030　佐々木　竜画　（赤坂ゼミナール）

「日本の労働実態と過労死」

【優良賞】

・経 26041　新山　祐介　（沼田ゼミナール）
「液晶パネル産業における台湾企業の軌跡と課題」
【佳作】
・経 26033　須藤　大貴　（櫛田ゼミナール）
「日本プロ野球球団の経営と歴史」
《特別賞》
【パフォーマンス賞】
・経 26040　中嶋　潤　（井上ゼミナール）
「オリンピックの商業化と東京オリンピック」
【地域貢献賞】
・経 26016　川口　雄介　（中村ゼミナール）
「地域活性化に関する一考察～釣りを活用した今別町を事例として～」
【研究奨励賞】
・経 26016　川口　雄介　（中村ゼミナール）
「地域活性化に関する一考察～釣りを活用した今別町を事例として～」

（飛鳥由美子　講師）

[総合経営学部教務委員会の取り組み]

平成 29 年 4 月、青森大学経営学部は従来の経営学部を発展的に改組する形で「総合経営学部」に改称した。平成 30 年 4 月には、教育内容の更なる発展を目指して従来の 3 コース（事業マネジメント会計コース、経営情報システムコース、スポーツビジネスコース）のうち、選択者の少ない経営情報システムコースを廃止して 2 コース制とした。平成 31 年度以降も良き伝統は活かしつつ、改革の歩みを進めていく。

平成 30 年度の総合経営学部教務委員会は、(1) 履修指導・出欠管理、(2) 教務課程改革を中心に取り組み、教育の質のさらなる向上を目指す。(1) については昨年に引き続いてスチューデント・アシスタント制度を活用した教務相談会を新年度の履修登録期間中に実施した。この取り組みでは、４年生のスチューデント・アシスタントが自身の大学生活の経験を踏まえて、履修登録単位数の目安など教務面について新入生を中心とした後輩学生の相談に乗った。教務相談会の開催期間中（4 月 5 日～10 日）、延べ 20 名を超える学生が相談に訪れた。(2) については平成 31 年度以降のカリキュラム改革（コース再編と観光プログラム（仮称）の導入）に向けて、カリキュラムの体系化、FD 委員会と連動した授業点検などを進めていく。

（松本大吾　講師）

【台湾からの短期留学生の受け入れ】

４月から台湾の明道大学よりシエンテイ、スイシ、リケンカの３名の短期留学生を受け入れています。来日後すぐに吹奏楽部やお笑い研究部などの部活動に取り組み、積極的に日本人学生と交流を深めています。昨年９月から来ている修平科技大学の留学生５名と一緒に日本文化体験や地域貢献活動に取り組み、被災地ツアー、田舎館田んぼアートの田

植え、茶道などを体験しました。６月末には老人ホームで水餃子を作って交流する予定です。短期留学生たちは、総合経営学部の授業で専門用語に苦戦しながらも、日本人学生のサポートを受けながら大学生活を楽しんでいます。

（石塚ゆかり　准教授）

◎総合経営学部高大連携・接続の取り組み

平成 27 年度入学生から創設された簿記資格保有による学業特待制度の創設から 3 年が経った。本特待制度を利用して入学する学生の多くは日商簿記 2 級または全商簿記 1 級の取得者であり、入学後は日商簿記 1 級取得を目指す学生、IT パスポートなどの情報系の資格取得を目指す学生、高等学校教諭一種免許（商業）を目指す学生、簿記（会計）の知識を用いて学生向けの学外コンテストに取り組む学生など様々おり、それぞれの目標に向かって充実した日々を送っている。

また、平成 29 年度から開始した総合経営学部の「高大連携科目等履修制度」では、日商簿記 1 級取得に向けた科目に高校生を受け入れている。今年度前期は青森商業高校の 3 年生 1 名が「商業簿記（上級）」と「工業簿記（上級）」の講義を履修しており、本学学生たちとコミュニケーションを取りながら受講している。

（松本大吾　講師）

[『ＩＴパスポート試験』合格者１名（主催：情報処理推進機構）に向けての取り組み]

5 月 26 日に行われた平成 30 年度『IT パスポート試験』において、2 年:1117018 大水真君が見事合格しました。本学部から、3 年ぶり 13 人目の合格者です。

本試験は、ＩＴ化が進む現代社会において、備えておくべきＩＴに関する基礎的な知識・能力を有することが証明できる国家試験です。

総合経営学部では、合格をめざす学生向けに夏休み・春休みの期間を利用し、短期集中型形式の講習会を開講しています。

自身の設定した目標に向かって取り組むことで、短期間で急速に成長していく様子が、指導する立場として最も強く印象に残ります。またこの種の資格試験合格者は、就職にも強いという傾向が見受けられます。今後も、広く学生にチャレンジを呼びかけながら、これまでの対策講習会で得た多くの教訓・経験を活かした指導を行っていく考えです。

（石川祥三 教授）

［総合経営学部スポーツ大会］

6 月 18 日（月）3・4 限目に掲題をを開催。4 学年全 26 ゼミ 32 チームがエントリーしし、白熱したゲームを展開。勝ち進むチームは徐徐にチームワークも良くなり、ラリーが続き思わぬファインプレーも飛び出した。4 年生チームはギリギリのメンバーで就職活動で参加できなかった仲間の分までハッスルした。決勝戦は 2 連覇を目指した 4 年赤坂ゼミが決勝戦で息が切れ惜しくも準優勝、チームプレーと個人技がバランスが取れた 2 年小川ゼミが見事優勝した。

	（ゼミ名）	（チーム名）
優　勝	2 年小川ゼミ	（2 年小川ゼミ）
準優勝	4 年赤坂ゼミ	（4 年赤坂ゼミ）
3　位	3 年井上ゼミ	（3 年井上ゼミ）
4　位	1 年佐藤ゼミ	（太田）

ベスト 8　3 年岩淵ゼミ（長谷部ファイターズ）
2 年佐々木ゼミ（佐々木豊志ゼミ）
1 年佐々木ゼミ（優勝を狙うチーム）
3 年櫛田ゼミ（P 櫛田ゼミ）

（佐々木豊志　教授）

［東日本学生新体操選手権大会］

5 月 18～20 日、栃木県南体育館において第 51 回東日本学生新体操選手権大会が開催され、団体選手権 11 年連続 15 度目の優勝を果たしました。個人総合選手権においても安藤梨友（経 2）が 3 位に入賞した。

＜団体成績＞　優勝:青森大、4 位:青森大C

＜個人総合成績＞　3 位:安藤梨友（経 2）、、7 位:佐久本歩夢（経 4）、8 位:佐藤颯人（経 2）、10 位:城市拓人（経 2）、11 位:佐藤綾人（経 2）、14 位:持舘将貴（経 3）、15 位:満仲進哉（経 2）、16 位:清水琢巳（ソ 2）

※団体 2 チーム、個人 8 名が 8 月に高崎アリーナで行われる第 70 回全日本学生新体操選手権大会の出場権を得た。

（中田吉光 教授）

[学会報告、学会活動など] 平成 30 年 1 月～

中村和彦　「地域ブランドとパートナーシップ・マネジメント」日本経営学会、2018 年 3 月 25 日

松本大吾　「青森大学総合経営学部の教育目的、教育課程と教育方法」地域経営学会第 31 回研究会，統一論題報告（青森公立大学、2018 年 5 月 26 日）

森　宏之　「病院経営におけるヘルスケアリート導入の課題」日本財務管理学会第 46 回春季全国大会 2018 年 6 月 2 日（京都産業大学）

[社会活動･地域貢献･講演など] 平成 30 年 1 月～

赤坂道俊

1 月 20 日　講演：「ネット通販（電子商取引）の巨人「アマゾン」から学ぶ」青森大学オープンカレッジ・平成 30 年新春市民講座・まちなか土曜セミナー・カフェ。於：フリーカフェしんまち・まちまちプラザ

2 月 22 日　平成 29 年度第 2 回青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援運営協議会（会長)、於：青森職業能力開発促進センター

3 月 5 日　第 7 回青森地方最低賃金審議会（会長)、於：青森合同庁舎

5 月 10 日　地域連携推進会議（平内町)、於：平内町役場

5 月 11 日　高大連携推進会議（青森北高校)、於：青森北高校

5 月 18 日　地域連携推進会議（青森市)、於：青森市役所

5 月 23 日　平成 30 年度農地中間管理事業評価委員会、於：青森県共同ビル

井上　隆

1 月 16 日 マスコミ（河北新報）インタビュー対応、青森県公社等経営評価委員会による「むつ湾フェリー株式会社」D評価について

1 月 24 日　東北地方整備局 青森県道路交通環境安全推進連絡会議、アドバイザー、青森河川国道事務所

2 月 7 日　青森大学･青森商工会議所(まちなかキャンパス事業)共催、『第 1 回 RISTEX プロジェクト シンポジウム 2018』「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」、コーディネーター、アウガ･AV 多目的ホール

2 月 9 日　東北地方整備局 青森･南部地域道路ネットワーク検討会(第 1 回)、委員、三八地域県民局三戸地方保健所

2 月 14 日　青森地域産学連携懇談会･郊外交通結節研究事業研究会、座長、青森商工会議所

2 月 15 日　青森市中心市街地活性化協議会･第 2 回運営委員会、副会長、青森商工会議所

2 月 17 日　青森大学･青森市･平内町･三戸町･青森商工会議所共催、於：福祉増進センター、第 5 回青森地域フォーラム「地域と大学が拓くあおもりの明日」、司会

2 月 23 日　国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境･労働時間改善青森県協議会(第 8 回)、会長、青森県トラック会館 ⇒関連記

事：「第8回トラック輸送 取引環境･労働時間改善 青森県協議会」『青森県トラック協会報』2018/3月号,No.489、pp1-2.

2月27日　青森市総合都市交通対策協議会（第3回）、会長、しあわせプラザ

3月19日　(公益社団法人)青森県トラック協会 平成29年度 青森県貨物自動車運送適正化事業実施機関評議委員会、委員長、青森県トラック協会研修センター ⇒関連記事：「'Gマーク' 青森県内普及進まず」『東奥日報』2018.3.22. ⇒委員会広報：『デーリー東北』2018.3/29,『東奥日報』3/30,『むつ新報』3/30.

3月20日　青森市中心市街地活性化協議会 調査研究事業 先進地視察・ヒアリング調査 ノーザンステーションゲート秋田(JR東日本・秋田支社)､アキチャレ(秋田市商工貿易振興課)

4月13日　青森地域産学連携懇談会･郊外交通結節研究事業研究会(第2回)、座長、青森商工会議所

5月 9日　青森市中心市街地活性化協議会正副会長会議、副会長、青森商工会議所

5月 9日　青森市総合計画審議会、組織会･第1回織会、委員、ホテル青森4F錦鶏青森市総合計画審議会、第4分科会、会長、ホテル青森3Fはまなす ⇒関連記事：「新総合計画策定へ審議会設置/青森市」『東奥日報』2018.5.10

5月17日　青森市中心市街地活性化協議会総会、副会長、青森商工会議所2F

5月17日　青森市 新町商店街振興組合年次総会・懇親会、来賓参加、アラスカ会館

5月18日　東北地方整備局 青森･南部地域道路ネットワーク検討会(第2回)、委員、青森河川国道事務所会議室

5月18日　NPO法人ひろだいリサーチ、拡大理事会、青森大学

5月19日　模擬授業「小売業の新潮流―移動販売車の社会的役割と機能―」、青森大学オープンキャンパス、5306.

6月 1日　青森市総合都市交通対策協議会(第一回)、会長、青森市中央公民館

6月 9日　NPO法人ひろだいリサーチ､通常総会､弘前大学大学院地域社会研究科演習室

佐々木豊志

1月 9日　「Place Based Education Project」企画会議　於：NPO法人エコプラス会議室（東京都千代田区）

1月18日　環境省「みちのく潮風トレイル業務構築会議」　於：環境省種差海岸インフォメーションセンター（青森県八戸市）

2月2～6日　「中国子ども雪上キャンプ指導」　於：くりこま高原自然学校（宮城県栗原市）

2月7～10日　「雪だ！灯だ!!あおもり冬のワンダーランド」イグルー作り＆イグルーカフェ　於：八甲田丸前広場（青森県青森市）

2月10日　「小川プロジェクト研修会～NPO活動を持続的な活動にするため～」　於：おいらせ町カワヨグルーン牧場（青森県おいらせ町）

2月15日　「RQ災害教育センター理事会」　於：RQ災害教育センター会議室（東京都荒川区西日暮里）

2月18日　「みちのく潮風トレイル業務構築会議＆ミニフォーラム」　於：環境省種差海岸インフォメーションセンター（青森県八戸市）

2月23日　「岩手三陸ふるさと魅力発見事業委託団体意見交換会」　於：岩手県宮古地区県合同庁舎３階大会議室（岩手県宮古市）

2月26日　「森のようちえん全国ネットワーク連盟理事会」　於：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

3月 7日「弘前学院聖愛高等学校の模擬授業」　於：弘前学院聖愛高等学校（青森県弘前市）

3月10日　朝日新聞社主催「大学「SDGs ACTION AWARDS」最終選考プレゼン　於：有楽町朝日ホール（東京都千代田区）朝日新聞3月28日朝刊に掲載：下川町賞受賞

3月18日　「ESDでひらく未来」シリーズ執筆者会議　於：学分社会議室（東京都目黒区）

3月19～21日　「熊本地震復興セミナー」　於：益城町交流情報センター（熊本県益城町）

3月22日　「日本outward bound協会評議員会」　於：日本outward bound協会会議室（東京都新宿区）

3月23日　「NPO法人日本の森バイオマスネットワーク理事会＆総会」　於：みやぎNPOプラザ第2会議室（宮城県仙台市）

4月 4日　「加美町ボリウダリングパークやくらいWALL 落成式」　於：やくらい交流ターミナル施設（宮城県加美町）

4月 5日　アメリカ合衆国「EQUITOURS」企画担当者の青森県内ツアー企画調査同行　於：十和田乗馬クラブ・星野リゾート青森屋・三沢ホースパーク（調査の模様は、東奥日報5月11日朝刊に掲載）

4月18日　「みちのく潮風トレイル業務構築事業」名取トレイルセンター運営協議会発足設立総会　於：名取市文化会館小ホール（宮城県名取市）

5月13日　「経営学演習・社会的企業の経営」　於：woodrack土場（青森県青森市）東奥日報5月15日朝刊に掲載「薪割りで林業経営学ぶ」

5月22日　「観光庁産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」打ち合わせ会議　於：環境省種差海岸インフォメーションセンター（青森県八戸市）

5月25～27日　「日本環境NPOネットワーク会議＆総会」　於：マイアミオートキャンプ場（滋賀県野洲市）

5月28日　「森のようちえん全国ネットワーク連盟理事会＆総会」　於：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

6月1～6日　観光庁観光人材育成講座「済州オルレ現地ヒアリング＆調査」　於：社団法人済州オルレ協会＆オルレ1・3・6・7（韓国済州島）

6月16日　「経営学演習・林業経営の実際」青森県林政課と連携指導　於：青森山田学園所有演習林（青森県青森市沢山）

6月22～24日　「日本野外教育学会第21回大会」　於：信州大学（長野県長野市）

6 月 25 日　観光庁「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」第 1 回全体会議
於：中央合同庁舎 2 号館 1 階共有会議室 5（東京都千代田区）

中田吉光

1 月 15 日　青森市スポーツ奨励賞（ホテル青森）を受賞
1 月 20 日　青森県スポーツ大賞（国際ホテル）を受賞
1 月 26 日　ＴＢＳ「金スマ」気になる男シリーズ三浦大知に対するコメント紹介
1 月 27～28 日　男子新体操全国合同合宿及び審判講習会東北会場（岩手：滝沢勤労者体育センター）として 150 名の参加
1 月 30 日　「週刊エコノミスト」毎日新聞出版の特集「問答有用」に掲載
2 月 3 日　廣田神社主催の節分豆まきに福男として招待を受け神事に参加
2 月 8 日　青森市スポーツ推進審議会に出席
2 月 9 日　平成 29 年度オリンピック・パラリンピック全国展開事業（白石市）に体操指導として学生派遣
2 月 16 日　青森県自動車会議所 50 周年記念基調講演
2 月 25 日　ＯＫＢ体操発表会（岐阜）に学生を派遣
3 月 8 日　全日本学生体操連盟総会及び関東・東北北海道学生体操連盟役員総会（岸記念館）に出席
3 月 12 日　ＮＨＫ「元気あっぷる体操」放送用見本の新撮り
3 月 23 日　（公財）日本体操協会男子新体操委員会議（福島）に出席
4 月 6 日　青森放送「ZIP！FRIDAY」生情報番組のゲストコメンテーターとして出演
4 月 7 日　青森県体操協会総会の場で「青森国体に向けて」と題し講演（ねぶたの家ワ・ラッセ）
4 月 7 日　青森県体操協会各賞受賞祝賀会（ｳｴﾃﾞｨﾝｸﾞﾌﾟﾗｻﾞｱﾗｽｶ）において優秀監督賞を受賞
4 月 21 日　青森市沖舘市民センター講座において「元気あっぷる体操」を指導する
4 月 23 日　青森市立幸畑小学校ＰＴＡ総会に役員として出席
4 月～5 月　ＢＳ１１『ザ・チーム　勝利の方程式』2 ヶ月間番組取材
5 月 31～6 月 3 日　「第 16 回全日本ユースチャンピオンシップ兼第 9 回男子新体操団体選手権大会審判員として参加（高崎アリーナ）
5 月 27～28 日　ＮＨＫ『聖火のキセキ』の番組取材。泉浩アテネ五輪柔道銀メダリストとの対談
6 月 4 日　テレ朝『とくもり！』取材。6/16 放送予定
6 月 9 日　ＮＨＫ『有田Ｐおもてなす』に本学ＯＢの「BLUE TOKYO」出演に際し、昨年新体操全日本優勝演技を使用
6 月 9 日　青森山田学園 100 周年記念青森大学公開特別講義『スポーツが人生をつくる』のテーマのもと平昌オリンピックスピードスケート金メダリストの小平奈緒選手・結城匡啓コーチとの鼎談を行う
6 月 15～17 日　東北高校総体新体操競技の審判長を行う

6月15日　　ＢＳ１１『ザ・チーム　勝利の方程式』22:00～2：30放送
6月29日　　ＮＨＫ総合『聖火のキセキ』19:30～19:57放送

中村和彦
2月　　浅虫温泉椿館にて打ち合わせ
3月　　あおもり雪灯りまつり　写真展出展（於：ワラッセ）
3月　　「東奥日報」2018年3月26日付　　掲載
3月　　浅虫温泉観光協会にて打ち合わせ
4月　　青森市総合観光ガイドブック「NIPPONここだけ青森市」P.4　掲載
5月　　ソウルフラワーユニオン中川敬　東北ツアー　ライブ撮影担当
6月　　近藤等則　東北ツアー　ライブ撮影担当
6月　　浅虫温泉観光協会ポスター　撮影

沼田　郷
2月15日　『せば！！いくべし！！やなぎまち♪』　柳町商店街新聞　第一、二号発行
2月12日　幸畑スノーフェスティバル2018
2月15日　青森中央高校　模擬授業（課題研究のすすめかたについて）
2月17日　第5回青森地域フォーラム開催
3月15日　青森市まちなかフィールドスタディー助成事業成果報告会
3月19日　青森市産業振興財団　新春懇談会
3月28日　青森地域大学間連携協議会開催　平成29年度第二回
3月31日　柳町商店街　パンフレット完成
5月 8日　平内まるごとブランド戦略会議（於：平内青少年会館）
5月10日　柳町商店街振興組合総会　　（平成29年度活動報告）
5月22日　津軽海峡ブランド認証委員会
6月11日　津軽海峡ブランド認証委員会
6月15日　あおもりフィールドスタディ助成事業申請

松本大吾
1月 6日　　全国ビジネス系大学教育会議理事会へ出席（於：東京ガーデンパレス）
2月17日　　第5回青森地域フォーラムに「第2回はこだて学生政策アイデアコンテスト活動報告」指導教員として出席
6月29日　「地域の産業とビジネスを支える人づくり事業」（青森県教育委員会主催、於：青森県総合学校教育センター）第1回連絡協議会に委員として出席

森　宏之
5月11日　　青森市指定管理者委員会出席（青森市市役所庁議室）
6月 8日　　｛アベノミクスに関する見通し」公益社団法人鉄道貨物協会（青森国際ホテル）

社 会 学 部

[これからの社会学部]

4 月 2 日に社会学部は 90 名の新入生と 7 名の編入生および転学部生の合計 97 名を迎え、新年度のスタートをきりました。従来本学部の柱である「あてにされる社会学部」「保護者が頼れる社会学部」について、昨年度はより具体的な取り組みとして、以下の 6 点を挙げました。

① 地域が必要とする人材を創出できるカリキュラムを備えている。
② 社会人力を育成することができる演習・実習がある。
③ 青森地域（あるいは出身地の地元）の自治体や産業界で必要とされている職場に内定がとれる。
④ 社会学部には自治体か産業界が必要としている知識・技術などの蓄積がある。
⑤ 自分の子どもが望んでいる就職ができる。
⑥ 社会学部には十分な教育力があり、社会学部を卒業することで、社会人として生活していく基盤ができる。

年々入学者が増加し学生のニーズも多様化しているなかで、それに対応するために新年度からは上記 6 点のうち主に①②⑥の具体化に取り組んでいます。特に学生が学びの中心となり、「地域」が必要としている人材としての力をつけて卒業していくことを目指しています。その一環として、これまで以上に演習科目を充実した新カリキュラムの導入や学生の支援体制を充実させました。

新カリキュラムでは、1 年次から社会学部の演習である「社会学入門演習」を設置し、少人数クラスで、学生同士が交流しながら文章の構成の仕方やディベート（討論）の仕方などを体験的に学び、社会学部で学ぶための基礎的力を養います。また、この社会学入門演習とともに社会学部の特徴である担任制度が実施されることで、特に 1 年次の学びや学生生活のサポートを充実させました。

また、高校生を含む地域の方々に社会学部の特色を明確に、わかりやすく社会学部の学びをイメージしていただくため、コース名称も「社会学コース」を「コミュニティ創生コース」、「社会福祉学コース」を「社会福祉コース」と変更しました。

社会学部は、今後一層「地域」が必要とする人材として、「地域」を活性化し、地域とともに歩んでいくことができる人材の育成を行っていきたいと考えています。

（藤林正雄　社会学部長）

［社会学部学生卒業論文・ゼミ論文発表会］

平成 30 年 1 月 23 日（火曜日）に、平成 29 年度社会学部卒業論文・ゼミ論文発表会が図書館棟 3 階の視聴覚室で開催されました。今年の報告者および演題は以下の通りでした。

午前の部（ポスター報告）

① 発話と重なる相づちと重ならない相づちの比較	社 26042	前田　安夢呂
② 地方からの人口流出―就職を中心に―	社 26005	荒川　弘哉
③ 会話における笑いの機能と種類	社 26044	松尾　雄太郎

午後の部（口頭報告）

・卒業論文の部

① 「障害者の笑いの表出」－「理解」し「配慮」すること	社 26049	横山　智哉
② 在日チベット２世　パスポート問題	社 26053	ソナムギャルモ

・ゼミ論文の部

① 学生の視点からみた地域貢献活動―今別町の調査事例から― 社 26035 對馬 有希
社 27021 佐々木 圭介

今回は新たな取り組みとして午前にポスター報告の部も設けたところ、3 題の演題が報告されました。ポスター報告でも、参加者と報告者の活発な意見交換が行われました。また午後の部の卒業論文やゼミ論文の報告でも、教員だけでなく 3 年生や 4 年生からの質問もみられ、盛会のうちに終了しました。参加者のうち 3 年生は、来年度は自分たちが報告することになるため、特に真剣に参加している様子が印象的でした。 （田中志子）

（午前：ポスター報告の部の様子）

（午後：口頭報告の部の様子）

［ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ ］

平成 30 年度は 16 名（4 年生 3 名、3 年生 13 名）の学生が、ソーシャルワーク実習Ⅰ（5 月 21 日（月）～5 月 25 日（金）合計 5 日間)、ソーシャルワーク実習Ⅱ（8 月 20 日（月）～9 月 15 日（金）合計 20 日間）合計 25 日間の実習を、10 か所の実習先で行い、ソーシャルワーク実習Ⅰの実習が無事修了しました。夏休み中からはソーシャルワーク実習Ⅱの実習が開始されます。

実習指導に関しましては、昨年度より実習指導Ⅰによる実習先についての基礎知識の習得や実習に臨むにあたっての心構え、綿密な実習計画の作成等、今年度の実習本番に向けての事前準備にはかなりの時間と労力をかけてきました。そして現場での実践的な体験を通して新たな知識・技術を習得すべく、実習生達は一所懸命に励んでおります。

（ソーシャルワーク実習指導Ⅰでのゲストスピーカー授業の様子）

(長内直人)

［ 精神保健福祉援助実習 ］

平成 29 年度は 8 名の学生が実習に臨み 5 名の学生が無事終了しました。5 名のうち 3 名はダブルライセンス取得のため 4 年生で実習した学生です。

今年度は、4 名の学生が実習を予定し、2 月に障害者施設で予備実習を 5 日間行い、精神障害者とかかわる機会を設け現場実習の事前学習を図っています。すでに第 1 段階実習(5 日間)を終えています。また、1 名の学生は、既に第 2 段階の行政機関実習（分散型）を 5 月から実施し、7 月中には終える予定です。もう 1 名の学生は、7 月に施設実習を予定しています。

夏季休業期間から後期中旬にかけて第 2 段階実習(24 日間)を予定しています。現在、医療関係施設と障害者支援施設の第 2 段階実習計画書の作成をしています。学生は随分悩んでいるようですが、卒業後、福祉現場で働く時には必ず役立つと思います。

（2 月に開催された「精神保健福祉援助実習報告会」の様子）

(藤林正雄)

［ 国家試験対策委員会報告 ］

昨年度の本学の国家試験の結果は、社会福祉士の合格率 20%（全国平均 30.2%）、精神保健福祉の合格率 14%（全国平均 62.9%）と、両福祉士共に全国平均を下回る結果となりました。

今年度の国家試験は平成 31 年 2 月 2 日（土）精神保健福祉士専門、3 日（日）精神保健福祉士・社会福祉士共通、社会福祉士専門で実施される予定です。本学の受験予定学生は、社会福祉士 10、精神保健福祉士 4 名、うちダブル受験 2 名です。

今年度は昨年同様、実習室を受験予定者へ開放し、各自若しくはグループで受験対策を行っております。また、3・4 年生を対象に、前期 6 回にわたって実施される共通科目の学内模擬試験と自主勉強会、後期 4 回にわたって実施される専門科目の学内模擬試験、さらに 8 月 20 日（月）～24 日（金）に実施される「通い合宿・自主勉強会」、10 月 19 日（金）～20 日（土）の 4 年生を対象とした全国統一模擬試験などを実施いたします。また、今年度より両福祉士国家試験受験対策といたしまして、前期・後期に受験対策 web 講座のパブリックビューイングを実施いたします。その他、受験予定者からの要望を受ける形で苦手科目の特別講座等も不定期に実施する予定です。

今年度は両福祉士共に全国平均の合格率を上回る結果を出せるよう、受験学生のサポートをし、一人でも多くの学生が合格できるよう、最後まで指導していきます。

(長内直人)

［学術論文・著書 ］

櫛引　素夫

・櫛引 素夫・西山弘泰「『新幹線学』の構築は可能かー『ポスト整備新幹線』時代に向けての論点整理と評価法検討ー」、地域社会研究、弘前大学地域社会研究会／弘前大学大学院地域社会研究科監修、(11)、2018.3、pp.11-23

久慈きみ代

・『津軽の源氏物語―高照神社所蔵「源氏物語之詞」』（久慈きみ代研究室刊行 2018 年 3 月 31 日）

・『寺山修司　時をめぐる幻想』（東京美術刊行 2018 年 4 月 2 日）（序文、寺山修司略年譜等担当）

・『駅を出ると文豪の街Ⅱ－寺山修司の風景―』（久慈きみ代研究室刊行 2017 年 3 月 31 日

・『駅を出ると文豪の街Ⅰ－太宰治『思ひ出』の街検証』（公益財団法人青森学術文化振興財団助成交付報告書）の姉妹篇。

佐藤豊

・「激動期を生き抜いた桂冠詩人：ジョン・ドライデン」、『イギリス文学を旅する 60 章』（明石書店、86～90 頁）近日出版予定.

中村　和生

・中村和生・浦野茂・水川喜文 「当事者研究におけるファシリテーター・当事者の実践――共成員性とカテゴリー対を中心に――」『保健医療社会学会論集』第 28 巻第 2 号, pp.65-75.

［ 学会発表など ］

櫛引　素夫

・櫛引 素夫「北海道新幹線開業に伴う青森・函館市民の意識変化」、日本地理学会春季学術大会、2018 年 3 月 22 日、東京学芸大学

・櫛引 素夫「『道の駅』と大学の連携が持つ課題と可能性― 青森大学の事例から」、日本地理学会春季学術大会・地域連携活動研究グループ、2018 年 3 月 23 日、東京学芸大学

・櫛引 素夫「青森市の都市政策の現状と住民活動の変容」、東北地理学会・春季学術大会、2018 年 5 月 20 日、東北大学理学研究科

・櫛引 素夫「これから着工・開業する新幹線地域に地理学は何ができるかー『新幹線学』検討の可能性」、経済地理学会・第 65 回東北大会、2018 年 5 月 20 日、東北大学理学研究科

佐藤豊

・「古家榧夫論―新興俳句と古家榧夫」日本比較文化学会東北支部発表会、2018 年 3 月 10 日、弘前学院大学

［ 報告書・書評・寄稿など ］

櫛引　素夫

◇東洋経済オンライン（http://toyokeizai.net/）連載「新幹線は街をどう変えるのか」

櫛引 素夫「YKK 本社機能移転と新幹線で変化『黒部』の今／整備新幹線構想の『夢』を実現した街の実際」、2018 年 1 月 23 日

櫛引 素夫「乗降客数からは見えない『新幹線駅』の明暗／速達列車打ち切りの駅や『道の駅』で沸く駅も」、2018 年 5 月 3 日

櫛引 素夫「進まない駅前開発､集客や地元連携にも課題／開業2年『北海道新幹線』特需消えて正念場へ」、2018年5月4日

［ 出張講義・講演など ］

櫛引　素夫

・新幹線フォーラム「北海道新幹線は「境」「絆」をどう変えるのか」企画・運営・基調報告、2018年1月20日、青森市・新町キューブ
・「人材流出にみる地域の課題－働く・暮らす・生きることの意味と労組の役割」、日本労働組合総連合会・北海道・東北ブロック労働委員会労委連絡協議会、2018年6月8日、青森県労働福祉会館
・「『終点・敦賀』時代をどう迎えるか－小松空港と北陸新幹線の共生」、小松空港国際化推進協議会、2018年6月14日、小松商工会議所
・「人口減少・高齢社会をどう乗り越えるか－北海道新幹線の開通と物流・地域振興」、パルシステム生産者・消費者協議会・2018年度東北・北海道ブロック会議講演、2018年6月21日、弘前市・ 弘前プラザホテル

久慈　きみ代

・放送大学青森学習センター面接授業、講師　2016年～2018年。
・第25回、青森大学　寺山修司忌（2018年5月25日（金　）企画・構成・演出。（萱森・久慈）
・「寺山修司からの手紙橘川さん（青森）6通保管」（2018年5月31（木）　東奥日報新聞）の資料価値について解読、協力。
・寄稿「思い出のお盆カレー」（東奥日報新聞2017年10月26日）
・あおもり古典を楽しむ会（月1回の勉強会、参加者15名程）2011年4月設立時より特別講師、現在に至る。『紫式部日記』（初期)、『伊勢物語』、『竹取物語』、『紫式部日記』（第2期）読了後、2017年7月より『蜻蛉日記』読みを開始。

田中　志子

・障害者支援施設かもめ苑職員研修会「事例検討とは」講師.（2月22日.青森市、県民福祉プラザ）

藤林　正雄

・「ストレスのことを知ってこころも体も健康だ！」（1月18日.　中泊町）
・森田保育園第三者評価調査　　（2月13日～14日.青森県社会福祉協議会.森田保育園）
・五所川原市ゲートキーパーフォローアップ研修会（2月22日. 五所川原市・NPO法人ほほえみの会）
・「青森しあわせネットワークタウンミーティング」（2月23日.青森県社会福祉協議会）
・平川市ゲートキーパーフォローアップ研修会（2月27日.平川市・NPO法人ほほえみの会）
・藤崎町ゲートキーパーフォローアップ講座（3月8日.藤崎町）
・青森しあわせネットワークにおける活動研修会（4月15日.青森県社会福祉協議会）
・六ケ所村傾聴フォローアップ研修（6月12日.六ケ所村・NPO法人ほほえみの会）

［ 地域活動 ］

櫛引　素夫　　特定非営利活動法人青森県防災士会理事
　　特定非営利活動法人ひろだいリサーチ理事
　　青森地方労働審議会委員

青森地方労働紛争担当参与
青森県中山間地域対策協議会委員
JAF 青森支部交通安全実行委員長
青森市・幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員
青森 KEN 民塾世話人
※奥津軽いまべつ駅・津軽中里間バス運行協議会の委託によるバス利用動向調査業務
（2017 年 10 月～2018 年 3 月・青森大学付属総合研究所の受託調査に従事）

久慈きみ代

・寺山修司原稿の掲載先を調査・研究（2016 年 4 月～2018 年 3 月）
青森県近代文学館蔵の寺山修司の生原稿 6 篇は、掲載先が不明のまま、原稿の全容が解明できずに展示されていた。が、今回の調査により、1967 年 2 月から 1970 年 9 月まで、27 回にわたりシチズン(CITIZEN)の広報誌「Citizen Sales News」に連載した作品原稿の中の 6 篇であることが判明。西東京シチズンミュージアムにて、実物の掲載紙と原稿を照合、間違いないことを確認。この一連の調査・研究が縁となり、寺山の 50 年前の作品（エッセー）と新進気鋭の画家たちの絵をコラボした物語画集『寺山修司時をめぐる幻想』（東京美術）が発売された。3 月には、東京代官山ツタヤ（ＴＳＩＴＥグランドギャラリー）にて、先行展示・販売が催されるなどして、好評を得、現在 2 刷に入る。
・高照神社「源氏物語之詞」調査及び写真撮影。写真は、山本忠宏氏。2017 年 9 月 23 日～24 日。
・昭和元年から昭和 30 年までの青森県における映画上映及び映画館状況について調査研究中。戦前、戦中、戦後の映画の題名を分析し、社会と言説との関係を探っている。

田中　志子　一般財団法人松丘保養園松桜会理事
社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団障害者総合センターなつどまり苦情解決委員・虐待防止委員

藤林　正雄　青森県福祉サービス第三者評価推進委員会（2 月 3 日、3 月 23 日）
青森県すこやか福祉事業団評議員会（3 月 9 日、6 月 2 日）
青森県運営適正化委員会（3 月 12 日、苦情解決部会：3 月 28 日、5 月 23 日）
青森県地域密着型サービス外部評価推進委員会（3 月 19 日）
つがる地域自立支援協議会（3 月 27 日）
あおもりいのちの電話理事会（1 月 20 日、4 月 21 日、5 月 19 日総会）
社会福祉法人「花」理事会（1 月 27 日、3 月 17 日、5 月 19 日）
青森県精神医療審査会（2 月 16 日、4 月 20 日、6 月 15 日）

ソフトウェア情報学部

【新任教員紹介】

黒田　茂(くろだ　しげる):ソフトウェア情報学部　准教授

今年4月から本学に赴任し、皆様にお世話になっております。前職は、北海道大学電子科学研究所助教として研究に従事するとともに、教育は理学部生物学科高分子機能学コースを担当しておりました。現在、生物が示す柔軟で多様な運動や行動の背後にあるメカニズムについて、実験と理論の両面から研究を行っております。このような分野は生物学、数学、物理学などの基礎科学と情報ソフトウェア科学、データ科学、機械工学などの工学が交わる学際的な分野ですので、教育面でもユニークな素材や話題の提供ができればと考えております。

今後は、青森の地の利を生かしたテーマを模索するとともに、生物のもつユニークなアルゴリズムの工学への応用にも学生の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えております。未熟者ではございますが、皆様にはご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申しあげます。

藤澤　日明(ふじさわ　あきら):ソフトウェア情報学部　助教

今年の4月より本学へと赴任し、皆様にお世話になっております。私は昨年度まで博士学生として研究を行っており、本年度より社会人1年目としてのスタートを切りました。教壇に立つのも初めての経験であり、まだまだ至らない点もあるかと思いますが、一所懸命に役目を努めるとともに学生の皆さんと一緒に成長していくことを目標に頑張りたいと考えています。

研究テーマとしては、アニメイラストやアスキーアートといったサブカルチャーな分野を対象として、それらの表現する意味理解や受け手が感じる印象などを、情報工学的な視点から解析することを目標としています。未熟者ではございますが、皆様にはご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

【平成29年度卒業研究発表会】(緑川章一)

卒業研究発表会が平成30年2月16日(金)9:00～12:10に本学5号館5102教室で開催された。9研究室16名の学生が、情報システム、CG・マルチメディア、ウェッブ、ロボット、組み込みシステムの各々の分野で取り組んできたテーマについて、実演を交えながら、分かりやすいプレゼンテーションを行った。発表内には、学生、教員から多くの質問や意見が出され、活発な討論がおこなわれた。

発表者と研究テーマは、以下の通りである。

堀端研究室

柿崎 拳人　15パズルの視覚表現ツールの改良

李研究室

和田 隆成　二部グラフにおける最大マッチング

角田研究室

蝦名 寛希　Webマーケティングの研究

松浦 成広　Kinect による手話認識

山崎 駿　研究者・コンテンツ開発者向け画像データベース構築

和島研究室

加藤 秀斗　発達障害を持つ児童の生活支援アプリ開発

工藤 誠也　水環境健全性指標 Web アプリの機能改善

永田 幸生　昭和初期の街並み観光コンテンツ

紅林研究室

川村 唯　DMD 法を応用したバイタルサイン解析手法の確立

佐藤 孝之　一般化位相モデルによる神経細胞のシステム同定手法の確立

坂井研究室

齋藤 大輝　主体的な学びを促す記述式クリッカーの開発

佐々木 信哉 AR を活用した出席確認アプリの開発

橋本研究室

木立 亮太　ロボットのプログラミングセミナー

友田研究室

小山 美春　空間図形の教育用ツール開発

緑川研究室

佐藤 絵里奈 Web 制作（青森県教員採用試験解答づくり）

武久 雄哉　「平成 30 年度青森県公立学校教員採用試験」の解答 HP 作成

【シニアネットワーク(SNW)東北 10 周年記念シンポジュウム】(矢萩正人)

2018 年 6 月 9 日(土)に仙台市の仙台国際センターで、SNW 東北 10 周年記念シンポジュウムが開催されました（参加者約 70 名）。このシンポジウムは、地球温暖化やエネルギー問題に対する原子力の役割について、次世代を担う学生を中心に対話を通じて理解を深める活動を展開し、今年で 10 周年を迎えたことを記念し開かれました。

本学からは、ソフトウェア情報学部 4 年の梅原稜、桜庭勇翔の両君が参加しました。当シンポジウムには、6 大学（青森大学、八戸工業大学、東北大学、東北学院大学、山形大学、長岡技術科学大学）と福島工業高等専門学校が参加し、各校から学校紹介等の発表がありました。本学から桜庭勇翔君が、対話会に参加したことをもとに「原子力と新エネルギー」のテーマで発表しました。学生、院生の発表の後、基調講演「地域における原子力共生活動（量子フォーラムプロジェクト）」（東北大学）、パネルディスカッション「学生との対話の意義、今後の課題」が行なわれ、議論が交わされました。

【日本水環境学会東北支部研究発表会でソフトウェア情報学部 4 年生が成果発表 (1/27)】

(角田　均、和島　茂)

日本水環境学会東北支部研究発表会でソフトウェア情報学部 4 年生が成果発表 (1/27)

1 月 27 日に東北大学大学院工学研究科で開催された廃棄物資源循環学会東北支部と水環境学会東北支部の合同研究発表会で、ソフトウェア情報学部 4 年生の工藤誠也君が「水しるべ調査の普及を推進する Web アプリの開発」というタイトルで発表を行いました。今回の発表は工藤君が、3 年生の創作ゼミナール、4 年生の卒業研究で 2 年間取り組んできた研究成果の報告になります。この研究では、総合的な水環境調査手法である「水しるべ調査(水環境健全性指標)」の調査データを、インターネット上のクラウドサービス + Web アプリを用いて共有、全国で実施されている水しるべ調査の標準プラットフォーム構築を目指しています。今年度の研究では昨年度のプロトタイプ開発を引き継いで改善、プラットフォームのインターフェースである Web アプリを実装し、実際に水しるべ調査を行っている八戸市立下長中学校の生徒を対象にした運用テストも実施しました。

研究会では工藤君が、多くの大学院生や企業からの報告者に混じって、緊張しながらも堂々と成果を発表しました。また会場の研究者たちから様々な質問やコメントが出され、今後の研究へのヒントをいただくことができました。また研究会後の、ポスターセッションを兼ねた交流会では、他大学からの参加学生やポスター発表の高校生、大学や企業の研究者達と情報交換、意見交換を行いました。

【青森県主催の IT 系イベントにソフトウェア情報学部の学生が参加 (2/6)】(角田　均、和島　茂)

青森県・新時代 IT ビジネス研究会主催の青森 IT・IoT ビジネスマッチング交流会が 2 月 6 日に青森国際ホテルで開催され、ソフトウェア情報学部の 3,4 年生が多数参加しました。新時代 IT ビジネス研究会は青森県が、IT 企業間及び他業種・他産業・他地域との連携プラットホームを目指して設立、IT・IoT を活用した新たなビジネスの創出を図る取り組みとして、県内外の IT・IoT 関係者の交流を行うマッチング交流会を毎年開催しています。青森国際ホテルでは県内外の企業・団体が最新の製品やサービスを出展、また毎年恒例の 5 分間のライトニングトークによるプレゼン道場を実施しました。青森大学からはソフトウェア情報学部を中心として、地域の企業や NPO、高校、自治体との連携プロジェクト 4 件を出展、学生が説明担当やライトニングトークで

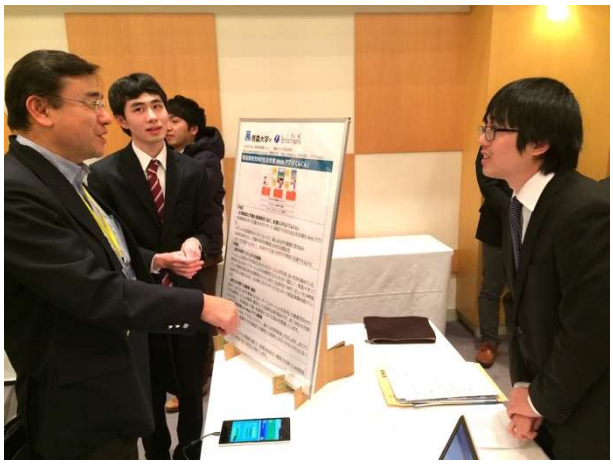
活躍しました。

(1) 青森大学×株式会社ソフトアカデミーあおもり ～小学生向けプログラミング教室の取り組み～

今年度からソフトウェア情報学部と株式会社ソフトアカデミーあおもりの共同で開始した、大学生による小学生向けプログラミングの取り組みを紹介しました。プログラミング教育の研究としてセミナ運営を担当、講師役も務めた佐藤祥子さん(3 年生)と武井将太郎君(3 年生)がブースの説明担当も務めました。

(2) 青森大学×株式会社リンクステーション ～発達障害児向け生活支援 Web アプリ「ぐんぐん」～

ソフトウェア情報学部と社会学部、株式会社リンクステーションが継続的に取り組んでいる、発達障害児のための Web アプリ開発の成果を紹介しました。展示スペースでは開発担当の加藤秀斗君(4 年生)と梅原稜君(3 年生)が来場者への説明を行い、ライトニングトークでは梅原君がプレゼンを実施しました。



(3) 青森大学×青森県立青森商業高等学校 ～新町にある老舗和菓子屋知らないの？～

青森大学と青森商業高校との高大連携の一環として、ソフトウェア情報学部の蝦名寛希君(4 年生)と高橋実久さん(3 年生)がサポートを担当した、青森商業高校課題研究チームの高校生が研究成果をライトニングトークで発表しました。新町の老舗和菓子店「甘精堂本店」をターゲットにした Web マーケティングの取り組みを

発表し、多くの企業からの発表者を抑えて最優秀プレゼン賞を獲得しました。

(4) 青森大学×青森県 ～東北 TECH 道場青森道場 2017 成果報告～

青森大学と青森県が主催、Google のサポートで開催されているアンドロイドアプリ開発講座「東北 TECH 道場青森道場」の今年度の開発成果を紹介しました。社会人・大学生・高校生が参加した道場で、地元のプロバスケットボールチーム青森ワッツの応援をテーマに 6 つのチームが開発したアプリを展示、来場者に実際に触ってもらい、気に入ったアプリに投票してもらいました。またプレゼン大会では各チームが作成した紹介動画を上映しました。

終了後の懇親会にも多くの学生が参加、地域の IT・IoT 関連企業からの参加者や自治体関係者と交流しました。これから就職活動を本格化させる 3 年生にとっても重要なイベントとなっています。

【情報処理学会東北支部研究会でソフトウェア情報学部 4 年生が成果報告】(角田　均、和島　茂)

2 月 19 日(月)に弘前大学で開催された平成 29 年度第 6 回情報処理学会東北支部研究会で、ソフトウェア情報学部 4 年生の加藤秀斗君が「SNS を応用した発達障害児のためのアプリ開発」というタイトルで成果報告を行いました。発達障害を持つ児童の生活支援のためのアプリケーション開発をテーマとした研究として、青森大学ソフトウェア情報学部と社会学部、八戸工業大学、株式会社リンクステーションが共同で進めてきた研究で、弘前市の NPO 法人光の岬福祉研究会の協力のもと、今年度で 3 年目となる実証実験を実施しています。これまでの研究ではゲーミフィケーションの仕組みを取り入れた Web アプリを開発、デイサービス施設で児童を対象とした実証実験を行うことで機能や効果の検証を行い、アプリの改善をはかってきました。今年度はこれまでのアプリで採用してきた、ゲーミフィケーションにおける報酬としてのゲームの仕組みを排除、SNS を応用した「いいね！」を報酬とする新たなシステムによる実証実験を行っています。

アプリ開発は毎回、ソフトウェア情報学部の 3 年生と 4 年生がペアで担当し、今年度主担当の加藤君は昨年度の情報処理学会全国大会(名古屋大学)での発表に続いて、2 回目の成果報告となります。前回は 3 年生として 4 年生の先輩をサポートする形での研究でしたが、今回は 4 年生として、3 年生の後輩とともに主導的な立場で研究を進め、成果報告ではシステムの中心機能となる Web アプリのサーバサイド実装について発表しました。また発表当日の午前中には実証実験中のデイサービスでスタッフへのヒアリングを実施、リアルタイムの実施状況として研究報告にも組み込みました。

【「インターナショナルオープンデータデイ 2018 in あおもり」開催 (3/3)】(角田　均、和島　茂)

オープンデータの世界同日イベント「インターナショナル・オープンデータ・デイ 2018」が 3 月 3 日(土)に世界の 406 都市で開催されました。「オープンデータ」とは行政などが持つ様々なデータを積極的に公開し、新しいサービスやビジネスにつなげようという考え方で、近年、国際的な動きとして広まっています。インターナショナル・オープンデータデイはオープンデータの普及・啓発を目的に毎年、世界同日イベントとして開催されており、青森でも 2013 年から毎年、青森大学を会場にイベントを実施しています。

今回は青森市・弘前市・八戸市の 3 市を結んだ産官学連携イベントとして開催、青森市の会場となる青森

大学では、ソフトウェア情報学部の学生 10 名に加え、社会人 18 名、高校生 14 名が参加してアイデアソンに取り組みました。あおもり官民データ活用推進コンソーシアムの米田代表による挨拶、青森市情報政策課の細田主幹からの青森市のオープンデータへの取り組みの説明に続けて、青森県データ活用アドバイザの三上智幸氏(青森共同計算センター)によるファシリテートでアイデアソンを実施しました。社会人、大学生、高校生が入り混じってチームを作り、「こんなオープンデータがあったらいいね！」をテーマに、グループワークに取り組みました。途中、弘前会場、八戸会場とも中継でつなぎながら、それぞれの会場の様子や成果報告を交えて 3 市合同でのイベントを進行しました。グループワークでは自由な雰囲気の中、社会人、大学生、高校生がそれぞれの立場から活発に意見・アイデアを出し合い、上手に役割を分担しながら議論をまとめて最終的なプレゼンまで完成させました。最後は八戸会場と合同で成果報告を実施、青森会場からは「地図にうつらないものマップ」や「高校の学校環境を指標化してオープンデータ化」など、6 つのグループからそれぞれオープンデータを活用したユニークなアイデアが紹介されました。最後に、青森大学ソフトウェア情報学部・角田教授から全体の講評があり、閉会しました。

このイベントを通じて、高校生や大学生をはじめとする多くの若い人がオープンデータの考え方に親しみ、未来を作る新しいサービスやビジネスを生み出すきっかけとなることを期待しています。

【ソフトウェア情報学部 3 年生が情報処理学会全国大会で研究発表 (3/14)】(角田　均、和島　茂)

3 月 13 日(火)～3 月 15 日(木)に早稲田大学(西早稲田キャンパス)で開催された情報処理学会第 80 回全国大会で、ソフトウェア情報学部角田研究室所属の梅原稜君(3 年生)が創作ゼミナールで取り組んだ研究を発表しました。

発表タイトル:「発達障害を持つ児童の生活支援のための SNS 的アプリケーション」

ソフトウェア情報学部と社会学部が、株式会社リンクステーションと共同で 5 年前から進めてきた、地域連携研究の中で取り組んでいるプロジェクトです。弘前市で発達障がい児のためのデイサービスを運営している NPO 法人光の岬の協力の下で、デイサービスでの生活支援を IT で高度化・高機能化する目的でシステム開発と実証実験を行っています。3 年目となる今年度は、これまでの成果を元にシステムを全面的に見直し、新たに SNS の仕組みを応用した Web アプリケーションとして開発、12 月からひかりデイサービスで小学 3-5 年生の児童を対象に実証実験を行っています。今年度の開発では 4 年生の加藤秀斗君がサーバサイドの開発を担当、梅原君は今回のアプリの肝となる SNS 機能のインターフェース部分のデザインと開発を担当しました。

発表内容は開発したシステムの内容から実証実験の状況、ヒアリングによる効果の分析結果など多岐にわたるものとなりましたが、これまで学内外で多くのプレゼンを経験してきた梅原君の発表は大変わかりやすく、会場の研究者から適切な質問・意見をもらうことができました。他大学の 4 学生や大学院生の発表と比べても、質の高い発表でした。

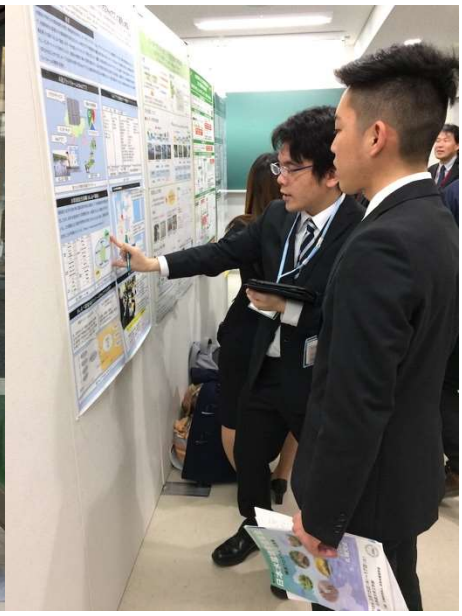
【日本水環境学会でソフトウェア情報学部 3 年生が研究発表 (3/15)】(角田　均、和島　茂)

3 月 15 日(木)～3 月 17 日(土)に北海道大学で開催された第 52 回日本水環境学会年会で、ソフトウェア情報学部和島研究室所属の三浦光君(3 年生)が創作ゼミナールで取り組んだ研究をポスター発表しました。

発表タイトル:「水環境健全性指標普及のためのインターネット対応 Web アプリの運用と検証」

ソフトウェア情報学部が水環境学会東北支部と共同で進めている水環境健全性指標の可視化の研究で、昨年度の澤田洋二君(卒業生)の研究成果を引き継いで、今年度は 4 年生の工藤誠也君と三浦君が共同で開発に取り組みました。全国で実施されている水環境健全性指標を用いた環境調査(「水しるべ調査」)の調査成果をグーグルマップ上にマッピング表示する Web アプリを開発し、実際に中学校の水しるべ調査で利用してもらうなど、実証実験に取り組んでいます。ポスターセッションでは、水環境学会の発表としては珍しい研究テーマに多くの人に関心を持ってもらい、学会初日 2 回のコアタイムにはたくさんの人に立ち寄っていただきました。説明では三浦君がタブレットを駆使し、実際にアプリに触れてもらうことでたくさんの方から意見や感想をいただくことができました。

本研究では全国の水しるべ調査の統合プラットフォーム構築を目指して、来年度からは、三浦君を主担当として、全国の調査者を対象に本格的な運用テストを実施、12 月には東京でのシンポジウム開催を目指しています。



【ソフトウェア情報学部×鰺ケ沢高校 SBP 研究会 交流会 (3/24)】(角田 均、和島 茂)

3 月 24 日(土)、鰺ケ沢町のホテルグランメール山海荘でソフトウェア情報学部の和島研究室・角田研究室と、鰺ケ沢高校 SBP(Social Business Project: 地域ビジネス創出プロジェクト)研究会の交流会が開催されました。ソフトウェア情報学部では今年度、鰺ケ沢町のホテルグランメール山海荘に設置している高画質ライブカメラの画像データを用いたコンテンツ開発の研究に、山崎駿君(角田研究室 4 年生)、滝吉由麻さん(和島研究室 3 年生)、舘田真純さん(和島研究室 3 年生)が取り組みました。衛星観測画像と組み合わせたリモートセンシングの研究を目的に運用されている定点観測の画像データを活用して、それぞれ以下のようなテーマで鰺ケ沢町の景観に新たな付加価値を与えるようなデジタルコンテンツの企画・制作を行いました。

山崎: コンテンツ制作のための画像データベース構築

舘田: 鰺ケ沢の「雲」をテーマにした Web ページの制作

滝吉: 鰺ケ沢の「太陽」をテーマにした電子書籍の制作

今回は鰺ケ沢町観光協会会長でもあるホテルグランメール山海荘オーナーの杉澤廉晴氏のコーディネートで、鰺ケ沢高校で地域資源を活かしたビジネスの立ち上げを目指して活動している SBP 研究会との情報交換会を開催、お互いの研究成果を報告、意見交換しました。最初に高校生からの発表が行われ、「ポーくんジャーキー」や「力士くんおやき」など地域の素材を活かした商品開発の取り組みや、地域の特産品によるセレクトギフト「鰺の味」の企画・販売など、これまでのたくさんの成果が紹介されました。続けて大学生を代表して滝吉さんが今年度の担当者 3 名による開発成果を報告、開発した電子書籍を実際に見てもらいながら、新たに開始した研究プロジェクトの進捗状況や今後に向けての課題などを報告しました。高校生、大学生に加えて SBP 研究会顧問の木村先生、小山内先生やコーディネータの杉澤氏、また青森大学社会学部 OB でもある鰺ケ沢町観光協会事務局長の園村氏らによる活発な意見交換が行われ、4 月以降も情報交換しながら協力して研究を進めることを確認しました。最後に高画質ライブカメラプロジェクトを共同で進めている弘前大学理工学部丹波澄雄准教授による講評をいただいた後、名刺交換を行なって交流会を終了しました。

【芸術科学会東北支部研究会を開催 (3/30)】(角田　均、和島　茂)

3 月 30 日(金)、青森駅前のワ・ラッセを会場に平成 29 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会が青森大学の主催で開催されました。本学からはソフトウェア情報学部の角田研究室と和島研究室から 3 年生 4 名が研究発表を行っています。

SNS アプリケーションによる発達障害児の生活支援システム

○梅原稜，加藤秀斗，角田均，田中志子，工藤雅世(青森大学)，小久保温(八戸工業大学)，坂田令，坂本知英(株式会社リンクステーション)

定点観測画像データベースを利用した観光コンテンツ制作

○滝吉由麻，舘田真純，山崎駿，角田均(青森大学)

昭和初期の青森市の街並み再現

○田中美咲，永田幸生，和島茂(青森大学)

実店舗を対象とするWebマーケティングの実践研究

〇高橋実久，蝦名寛希，角田均(青森大学)

また4月から青森大学ソフトウェア情報学部に着任予定の藤澤氏による講演も行われました。

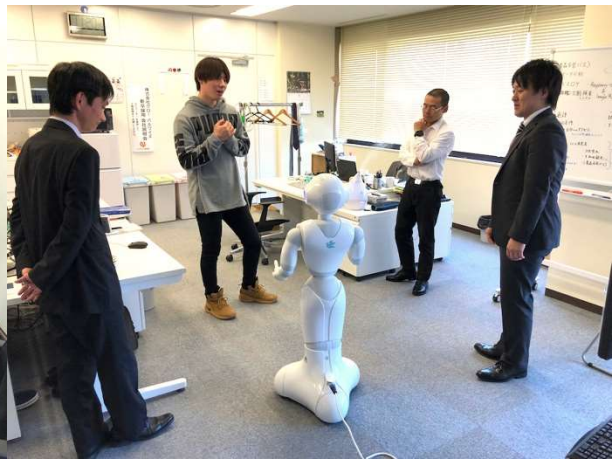
アスキーアート間の視覚的類似度の評価手法の提案

〇藤澤日明(徳島大学)

その他、岩手大学からの発表者も含め、のべ9件の研究発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。

【ソフトウェア情報学部の学生が株式会社グローバルワイズを訪問 (5/22)】(角田　均、和島　茂)

コミュニケーションロボット「ペッパー」のプログラミングをテーマとする研究プロジェクトのメンバーが、ロボット活用ソリューション事業を手がける株式会社グローバルワイズを訪問、情報交換を行いました。ソフトウェア情報学部では、昨年度から大学に導入されているコミュニケーションロボット「ペッパー」のための制御用プログラムを開発、学内外の様々なシーンでペッパーを活用できるようにする研究プロジェクトを開始しています。今回は開発担当の学生(吉田祐樹亜君(3 年生))が、株式会社グローバルワイズが昨年度新たに青森市に開設した事業所を訪問、ペッパー用のアプリケーションを開発している技術者と、システム設計や開発手法について情報交換を行いました。ペッパーとクラウドサービスを組み合わせたサービスの構築などもご紹介いただき、研究を進める上で大変有意義な場となりました。また株式会社グローバルワイズとは産学連携による共同研究や共同事業の展開を目指して、定期的に情報交換を行うこととなりました。次回は 6 月中旬、青森大学でのミーティングを予定しています。



【学生によるプロジェクションマッピングの指導 (5/29)】(角田　均、和島　茂)

ソフトウェア情報学部の学生が青森山田高校の IT 研究会のメンバーにプロジェクションマッピングの指導を行いました。5 月 29 日(火)、青森山田高校の IT 研究会の生徒を対象に、ソフトウェア情報学部の 4 年生がプロジェクションマッピングの事例紹介と技術指導を行いました。指導を担当した学生は、昨年度の大学祭でプロジェクションマッピングの作品を出展し、大変好評を得ました。青森山田高校の IT 研究会では、これからオリジナルのプロジェクションマッピングの作品を制作し、今年度の文化祭に出展することになっています。今後も定期的に青森山田高校を訪問して企画のサポートや技術指導などを行っていく予定です。

【IoT・プログラミング勉強会にソフトウェア情報学部の学生が参加 (6/12)】(角田　均、和島　茂)

NPO 法人あおもり IT 活用サポートセンターと株式会社アイティコワークの共催による、超小型コンピュータ「IchigoJam」を使ったプログラミング体験セミナ「2020 年の必修化はもう間近！大人こそ身につけておきたい『IoT・プログラミング』勉強会」に、ソフトウェア情報学部 4 年生の佐藤祥子さんと梅原稜君が参加しました。講師を務める福野泰介氏は、福井県の鯖江市で国内の自治体オープンデータの先駆けとなる「データシティ鯖江」とそれを活用する団体「Code for Sabae」を立ち上げ、内閣官房情報通信技術総合戦略室のオープンデータ伝道師として知られています。

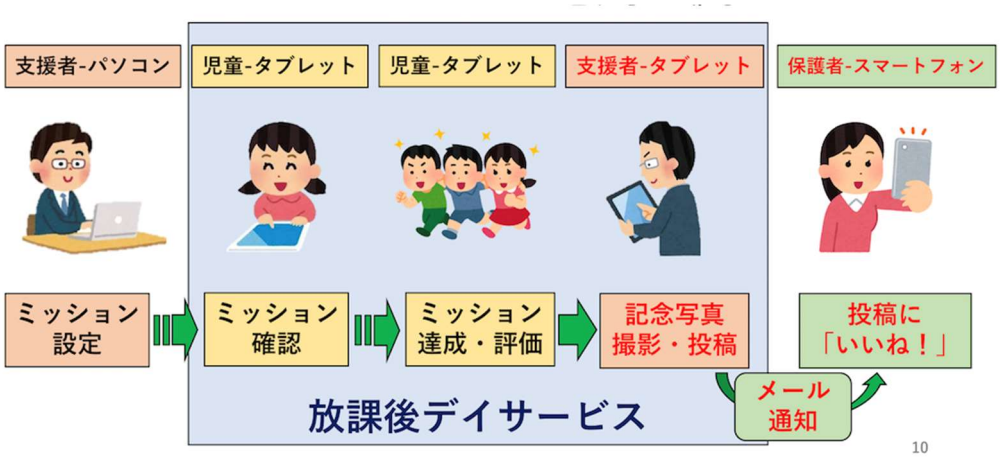
6 月 12 日の午前中、駅前のコワーキングスペース「Gravity CO-WORK」を会場に、福野氏が自ら開発した IchigoJam と IchigoJam BASIC を使ったプログラミング体験講座が開催され、地域の教育機関、自治体、IT 企業から約 20 名が参加して IoT・プログラミングに挑戦しました。勉強会に参加した佐藤さんと梅原君は、研究室に配属された 3 年次から「小中高校生向けのプログラミング教育」をテーマに研究に取り組んでおり、今回は国内外でプログラミング教育の豊富な実績を持つ福野氏の講座に参加することで、プログラミング初心者への伝え方やサンプルの作り方、授業の進め方やポイントなどを学ぶことができました。

【学生が開発した Web アプリを用いた実証実験のヒアリング調査実施（6/14)】(角田　均、和島　茂)

ソフトウェア情報学部の学生が開発、昨年度から弘前市のひかりデイサービス(NPO 法人光の岬福祉研究会)の協力で長期運用を行ってきた、発達障害を持つ児童のための生活支援 Web アプリ「ぐんぐん」の実証実験について、実施後のヒアリングを実施しました。実証実験 3 年目となる昨年度は、SNS の仕組みを取り入れた Web アプリを開発、デイサービスの児童を対象に年度をまたいだ長期実証実験を行いました。今回は昨年度からの開発担当の梅原稜君(4 年生)がひかりデイサービスを訪問、社会学部の田中教授(共同研究)と共に、現場の担当者から運用の様子や児童の状況などについてヒアリングを行いました。長期運用中の児童の変化や、SNS 機能を通じた保護者の反応、システムへの改善要望など、たくさんの意見、感想、要望をいただきました。

「ぐんぐん」の研究プロジェクトチームではこれまでの研究成果をもとに、今年度からより広範な利用者を想定した「健康 SNS」の開発に着手しています。チーフ開発者となる 4 年生の梅原君に加えて、今年度は 3 年生の北谷優典君と三上奈緒さんが新たにプロジェクトに参加、青森商工会議所とも連携して 9 月からの大規模実証実験を目指して開発を進めています。

※本研究プロジェクトはソフトウェア情報学部と社会学部、株式会社リンクステーションと八戸工業大学との共同で実施しています。



【IoT・データ活用ビジネスフォーラムにソフトウェア情報学部の学生が参加 (6/14)】(角田　均、和島　茂)

青森県と新時代 IT ビジネス研究会の主催による、新時代 IT ビジネス研究会 2018 キックオフ総会に、ソフトウェア情報学部の 3、4 年生 12 名が参加しました。今年度のキックオフ総会は 6 月 14 日(木)に「IoT・データ活用ビジネスフォーラム」として青森国際ホテルで開催、基調講演に横浜市立大学データサイエンス学部長の岩崎学教授を迎え、データサイエンスの本質と課題、現実のビジネスで価値を生み出すために必要なことなど、示唆に富んだお話をいただきました。講演に続いてIoTとデータサイエンスをテーマにトークセッション、県内企業の取り組み事例紹介などが行われました。

ソフトウェア情報学部から参加の学生はフォーラムに続いて交流会にも参加、県内外の IT 系企業や自治体からの参加者と名刺を交換、交流しました。現実のビジネスにつながる最先端の IT の話題に触れることで、新しい研究のアイデアやモチベーションにつなげるとともに、学生と地域の企業や自治体関係者との接点を増やすことで、学生自身のキャリア意識を高める機会となっています。

ソフトウェア情報学部では地域で開催される IT 系のイベントに積極的に学生を参加させており、深刻な人材不足に苦しむ地域の IT 企業や若者の流出に悩む自治体からも高い評価をいただいています。

【基本情報技術者試験合格】(和島　茂、友田敏章、李　孝烈)

4 月 15 日の基本情報技術者試験において 3 年生三上奈緒さんが見事合格して、資格を取得しました。三上さんは前年度基本情報技術者試験午前免除講座を受講して、6 月に午前試験免除修了試験に合格し、4 月の本試験では午後試験のみを受験しました。

【活動報告】

白岩　貢(演奏会出演等)

「白岩貢&梅本実リートリサイタル～連作歌曲集の黎明期を歌う」

青森市・県民福祉プラザ県民ホール(2018.2.24)

東京オペラシティ・リサイタルホール(2018.3.3)

「春を呼ぶミニ・コンサート」(デイサービスにおけるボランティアコンサート)
アースサポート新青森(2018.3.19)
「青森ベートーヴェンスコラーズ第 11 回公演～ヨハネ受難曲」(ソリスト)
リンクステーションホール青森(2018.4.1)

【学会、研究会、セミナー、発表】

- 工藤誠也,三浦光,角田均,「水しるべ調査の普及を推進するWebアプリの開発」, 第5回日本水環境学会東北支部研究発表会(東北大学), 2018/01/27
- 松浦成広, 和島茂,「Kinectによる手話認識」, 平成29年度芸術科学会東北支部大会(アイーナ(盛岡市)), 2018/01/27
- 加藤秀斗,梅原稜,角田均,田中志子,工藤雅世(青森大学),小久保温(八戸工業大学),坂田令,坂本知英(株式会社リンクステーション),「SNSを応用した発達障害児のためのアプリ開発」, 第6回情報処理学会東北支部研究会(弘前大学), 2018/02/19
- 梅原稜,加藤秀斗,角田均,田中志子,工藤雅世(青森大学),小久保温(八戸工業大学),坂田令,坂本知英(株式会社リンクステーション),「発達障害を持つ児童の生活支援のための SNS 的アプリケーション」, 情報処理学会第80回全国大会(早稲田大学), 2018/03/14
- 三浦光,工藤誠也,角田均(青森大学),三上一(元青森県),小久保温(八戸工業大学),矢野篤男(東北工業大学),「水環境健全性指標普及のためのインターネット対応 Web アプリの運用と検証」, 第 52 回日本水環境学会年会(北海道大学), 2018/03/15
- 梅原稜,加藤秀斗,角田均,田中志子,工藤雅世(青森大学),小久保温(八戸工業大学),坂田令,坂本知英(株式会社リンクステーション),「SNS アプリケーションによる発達障害児の生活支援システム」, 平成 29 年度第4回芸術科学会東北支部研究会(ワ・ラッセ(青森市)), 2018/03/30
- 滝吉由麻, 舘田真純, 山崎駿, 角田均,「定点観測画像データベースを利用した観光コンテンツ制作」, 平成29年度第4回芸術科学会東北支部研究会(ワ・ラッセ(青森市)), 2018/03/30
- 田中美咲, 永田幸生, 和島茂,「昭和初期の青森市の街並み再現」, 平成 29 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会(ワ・ラッセ(青森市)), 2018/03/30
- 高橋実久, 蝦名寛希, 角田均,「実店舗を対象とする Web マーケティングの実践研究」, 平成 29 年度第4回芸術科学会東北支部研究会(ワ・ラッセ(青森市)), 2018/03/30
- 藤澤日明(徳島大学),「アスキーアート間の視覚的類似度の評価手法の提案」, 平成 29 年度第 4 回芸術科学会東北支部研究会(ワ・ラッセ(青森市)), 2018/03/30

薬　学　部

[つがる市立瑞穂小学校ＰＴＡ後援会での講義]

12月８日（金）、つがる市立瑞穂小学校から依頼を受けて、PTA講演会で薬学部の大越准教授が講演いたしました。

テーマは「医薬品以外の薬学分野　－機能性食品：天然物由来の肥満改善素材－」です。

機能性食品は、摂取者が自分の状況を「健康増進・食生活改善」という面でプラス方向に変えるよう、意識づけも兼ねて利用することが望ましい、と紹介されました。

そして、青森の【冬場限定エクササイズ】は大変ウケました。

参加者は60名でした。

このPTA講演会とは、瑞穂小学校の例年12月の全校参観日において、教職員及び保護者への学びの場を提供しているものです。

（青森大学ホームページより）

[第４回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナーを開催しました]

２月１０日（土）、第４回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナーを青森大学５号館５１０１室で開催しました。

テーマは「あなたの睡眠の悩みを解消する　睡眠と睡眠薬のお話」で、講師は善本 正樹 氏（協和病院院長・秋田県大仙市）です。

参加者は５０名弱でした。参加者は、講師の話に熱心に聞き入っていました。そして活発な質疑もありました。

次回は3月17日（土）を予定しております。

主催：青森大学薬学部

共催：医療法人雄心会・青森新都市病院、青森大学脳と健康科学研究センター

（青森大学ホームページより）

[平成 29 年度第 1 回実務実習発表会の開催]

2 月 19 日（月）、平成 29 年度第 1 回実務実習発表会を開催しました。

薬学部 5 年生は、病院と薬局において、それぞれ 11 週間、実際の調剤を体験しながら勉強します。本学では、青森県をはじめとする多くの病院や調剤薬局などの協力のもと実務実習を行っています。この

今回、学生は、担任及び実習施設の指導薬剤師の先生方のアドバイスを受け、各自が学んできた内容を発表しました。

指導薬剤師の先生方や本学教員も出席する中で行われましたが、病院と薬局で経験を積んだだけあって、堂々とした発表ばかりでした。実務実習が終了した後、大学において、実務体験の発表を行います。プラス青い森にて開催しました。

（青森大学ホームページより）

[第５回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナーを開催しました]

3月17日（土）、第5回 未来 健康「しあわせあおもり」に生きるセミナーを青森新都市病院3F講堂で開催しました。

テーマは「口腔ケアと健康生活」で、講師は高谷 和彦 氏（一般社団法人青森市歯科医師会会長）です。

参加者は40名弱でした。参加者は、講師の話に熱心に聞き入っていました。そして活発な質疑もありました。次回は6月を予定しております。

主催：青森大学薬学部
共催：医療法人雄心会・青森新都市病院、青森大学脳と健康科学研究センター
（青森大学ホームページより）

[青森学術文化振興財団より平成 30 年度助成金交付内定をいただきました]

平成30年3月22日（水）公益社団法人 青森学術文化振興財団の平成30年度助成金交付内定式が、ラ・プラス青い森 2F メープルにて開催されました。

薬学部では次の4件について交付内定（カッコ内：交付内定額）をいただきました。
地域とともに生きる大学として、社会に貢献する活動に取り組んで参ります。

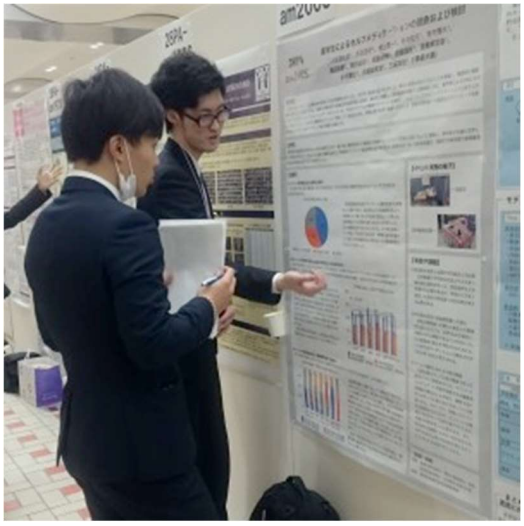
【公開講座開催事業】
1. 教授 大上 哲也 公開講座～青森いきいき脳健康教室～（288 千円）
【地域の振興に係る研究事業（一般枠）】
2. 教授 三浦 裕也 健康意識向上に対する地域医療健康支援効果の研究
-薬学生によるセルフメディケーション発信の有用性-（300 千円）
3. 教授 清川 繁人 陸奥湾を回遊するイルカの生態に関する研究3（285 千円）
【地域における学術・分化の進行にかかる事業】
4. 教授 大上 哲也 第5回青森オレンジ文化祭～認知症の方々の作品展示会～（151 千円）ー

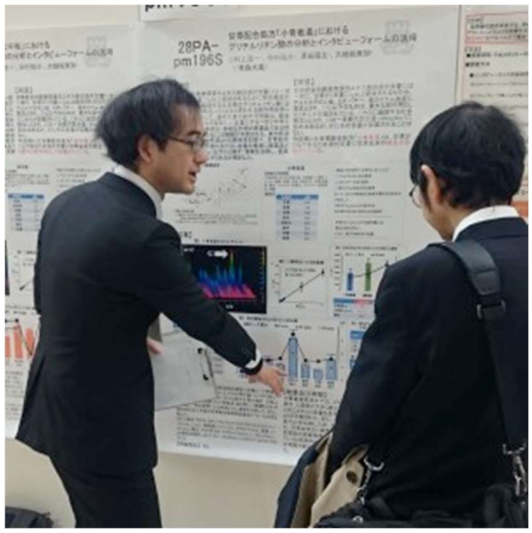
（青森大学ホームページより）

[日本薬学会第 138 年会で学生・教員が学会発表しました]

2018 年 3 月 25 日(日)･26 日(月)･27 日(火)･28 日(水)に金沢で開催された
日本薬学会第 138 年会にて薬学部 5 年生、6 年生および教員が学会発表を行いました。
来年(2019 年)は 3/20(水)-23(土)幕張メッセにて開催予定です。

(青森大学ホームページより)





[平成 29 年度第 2 回実務実習発表会の開催]

4 月 11 日（水）、平成 29 年度第 2 回実務実習発表会を開催しました。

薬学部 5 年生は、病院と薬局において、それぞれ 11 週間、実際の調剤を体験しながら勉強します。本学では、青森県をはじめとする多くの病院や調剤薬局などの協力のもと実務実習を行っています。この実務実習が終了した後、大学において、実務体験の発表を行います。

（青森大学ホームページより）

[第 1 回青森大学オープンキャンパスの開催]

5 月 19 日（土）、平成 30 年度第 1 回青森大学オープンキャンパスを開催いたしました。
薬学部では、「体験」シリーズの第 1 弾として以下の企画を実施しました。

1. ペーパークロマトグラフィー実験
2. 薬学部特別奨学金・入試説明（軽食を食べながら）
3. 薬学部紹介～薬学部で学べること～

ペーパークロマトグラフィー実験では、サインペンに含まれる色素を性質の違いによって分離し、さまざまな色に分かれる様子を楽しんでくれたようです。

また、今回の企画には薬学部の学生 9 名（6 年生 5 名、4 年生 2 名、3 年生 2 名）が、緊張していた高校生達の良き先輩役として、日頃の勉強の成果をここぞとばかり発揮して、実験をサポートしてくれました。

最後に、今年度オープンキャンパスにご参加いただいた多くの皆さまにお礼申し上げます！
皆さまの進路選択・職業選択のお役に立てたなら幸いです。

これからも青森大学薬学部は新たな企画を準備してお待ちしております。
知りたい情報等があれば青森大学薬学部へ気軽にご連絡ください。お待ちしております！

（青森大学ホームページより）

[第 51 回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップの実施]

6 月 2 日と 3 日の 2 日間にわたり、第 51 回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップを本学にて開催致しました。

受講者 30 名に事務局スタッフを加え総勢 58 名が参加し、改訂コアカリキュラムに従った実務実習の在り方について活発に討議いたしました。

このワークショップを修了された先生方が、薬学教育 5 年次の病院・薬局実習における指導薬剤師として活躍されます。

（青森大学ホームページより）

[第 2 回青森大学オープンキャンパスの開催]

6 月 16 日（土）、平成 30 年度第 2 回青森大学オープンキャンパスを開催いたしました。

薬学部では、「体験」シリーズの第 2 弾として以下の企画を実施しました。

1. アスピリンの合成実験
2. 薬学部特別奨学金・入試説明
3. 薬学部紹介～薬学部で学べること～
4. 学食体験（薬学部の在学生と話をしながら）

アスピリンの合成実験では、薬剤を量ったり、温めたり、冷却したりと大変でしたが、楽しんでくれたようです。

また、今回の企画には薬学部の学生 12 名（6 年生 8 名、5 年生 2 名、4 年生 2 名）が、緊張していた高校生達の良き先輩役として、日頃の勉強の成果をここぞとばかり発揮して、実験をサポートしてくれました。

最後に、今年度オープンキャンパスにご参加いただいた多くの皆さまにお礼申し上げます！
皆さまの進路選択・職業選択のお役に立てたなら幸いです。

次回は 7 月 21 日に開催致します。
これからも青森大学薬学部は新たな企画を準備してお待ちしております。
知りたい情報等があれば青森大学薬学部へ気軽にご連絡ください。お待ちしております！

（青森大学ホームページより）

[出張講義などの実施状況]

永倉 透記:

情報機構社主催セミナー ＜講師＞ 永倉 透記 ＜日時＞ 2018 年 6 月 22 日 ＜場所＞ 大田区産業プラザ(PiO)6 階 G 会議室 ＜セミナー内容＞ 鎮痛薬研究開発セミナー 入門編 慢性疼痛病態機序の理解から最適な前臨床疼痛評価系の構築まで＞ ＜対象＞ 製薬企業の研究開発担当者など

大越絵実加:

【出張講義】

2018 年 2 月 21 日 柴田女子高等学校 職業紹介「薬剤師」

【依頼講演】

12 月 8 日(金) つがる市立瑞穂小学校 PTA 講演会(受講生 60 名)「医薬品以外の薬学分野-機能性食品:天然物由来の肥満改善素材-」

【模擬講義】

10 月 24 日(火) 木造高校「植物から医薬品へ」

大上哲也:

【出張講義】

1 月 18 日 大野市民センター テーマ:脳の活性化トレーニング

【依頼講演】

1 月 9 日 青森市からの依頼講演 主催:青森市 居宅事業所部会
テーマ「高齢者における薬物治療の留意点 会場:青森大学 図書館 新館視聴覚室

2 月 15 日 青森ケア研究会からの依頼講演 主催:青森ケア研究会 会場:青森中央市民センター
テーマ「高齢者における薬物治療の留意点」

【講義(非常勤講師)】

2 月 2 日 弘前大学医学部 3 年生 講義 神経内科学 (1 コマ)

多根井重晴:

【出張講義】

5 月 21 日(月)ハートランドしぎさん看護専門学校(奈良県)「最近の話題など」

6 月 18 日(月)大和高田市立看護専門学校(奈良県)「最近の話題など」

6 月 27 日(水)第 2 回地域力アップ講座(青森市荒川市民センター)「ストレス」

[報告論文]

論文発表

Matsubara N., Imamura A., Yonemizu T., Akatsu C., Yang H., Ueki A., Watanabe N., Abdu-Allah H., Numoto N., Takematsu H., Kitazume S., Tedder T.F., Marth J.D., Ito N., Ando H., Ishida H., Kiso M. and Tsubata T.: CD22-Binding Synthetic Sialosides Regulate B Lymphocyte Proliferation Through CD22 Ligand-Dependent and Independent Pathways, and Enhance Antibody Production in Mice. *Frontiers in Immunology, B Cell Biology* https://doi.org/10.3389/fimmu.2018.00820 (2018)

Nagakura Y. Giving priority to preclinical pain measures resistant to existing drugs for developing innovative analgesics. *Drug Dev. Res.* (in press, doi.org/10.1002/ddr.21429). (2018)

Mochimaru Y, Negishi J, Murakami S, Musha S, Sato K, Okajima F, Tomura H.: Metals differentially activate ovarian cancer G protein-coupled receptor 1 in various species. *Zoolog Sci.* Apr;35(2):109-114. doi: 10.2108/zs170145. (2018)

Ito Y, Sanjo N, Hizume M, Kobayashi A, Ohgami T, Satoh K, Hamaguchi T, Yamada M, Kitamoto T, Mizusawa H, Yokota T."Biochemical features of genetic Creutzfeldt-Jakob disease with valine-to-isoleucine substitution at codon 180 on the prion protein gene", *Biochem Biophys Res Commun.*, 19; 496(4), 1055-1061 (2018)

岡島史和:糖代謝研究からシグナル伝達研究へ-ATP、 スフィンゴシン 1-リン酸、そしてプロトン- *The Kitakanto Medical Journal* 67:97-107 (2017)

[**学会発表など**]

多田 智美、益見 厚子、津田 岳夫、永倉 透記（青森大薬、青森大薬学教育セ） 6 年制薬学部教育における薬剤師国家試験対策勉強と卒業研究が相互に与える影響 2018 年 03 月日本薬学会 138 年会（金沢）

水谷 征法, 笹田 雅姫, 中村 慶祐, 山下 功太, 水野 憲一（青森大薬）G タンパク共役型受容体 GPR19 の過剰発現時における細胞周期関連タンパク質の発現解析 2018 年 03 月日本薬学会 138 年会（金沢）

澤田陽生、村上浩一、中村祐介、大越絵実加（青森大薬）甘草配合処方「安中散」 におけるグリチルリチン酸の分析とインタビューフォームの活用 2018 年 03 月日本薬学会 138 年会（金沢）

村上浩一、澤田陽生、中村祐介、大越絵実加（青森大薬）甘草配合処方「小青竜 湯」におけるグリチルリチン酸の分析とインタビューフォームの活用 2018 年 03 月日本薬学会 138 年会（金沢）

小笠原 大樹、井沼 道子、村上 浩一、村井 収平、本木 雅大、浅田 彩季、網野 佳奈、岡島 未槻、相馬 理佐、邉見 華菜恵、小川 達也、大越絵実加、三浦 裕也（青森大薬）薬学生によるセルフメディケーションの調査および検討 2018 年 03 月日本薬学会 138 年会（金沢）

中北敏賀、宮本万里、仲川剛、小山佳祐、植木章晴、鈴木克彦; α-クロロエポキシドに対する求核剤の位置選択的反応について, 2018 年 03 月日本薬学会 138 年会（金沢）

多根井重晴「日本およびタイの 大学生における体型の理想と誤認に関する調査研究」2018 年 03 月 3 日（土）第 25 回日本健康体力栄養学会大会（徳島）

Hiroaki Tsurumaki, Chihiro Mogi, Haruka Saito-Aoki, Koichi Sato, Takashi Nakakura, Masakiyo Yatomi, Yasuhiko Koga, Yoshimasa Hachisu, Akihiro Ono, Kunio Dobashi, Fumikazu Okajima, Takeshi Hisada: Absence of proton-sensing TDAG8 protects against ovalbumin-induced allergic airway inflammation. ERS（欧州呼吸器学会議）INTERNATIONAL CONGRESS 2017 2017年9月9日～13日（Milano, Italy）

Haruka Saito, Chihiro Mogi, Tsurumaki Hiroaki, Masakiyo Yatomi , Yasuhiko Koga, Akihiro Ono, Yoshimasa Hachisu, Makiko Sato, Kunio Dobashi, Tamotsu Ishizuka, Fumikazu Okajima, Takeshi Hisada : The role of Proton sensing receptor OGR1 in a house dust mite-induced

bronchial asthma model. 第27回国際喘息学会日本・北アジア部会, 2017年10月5日～6日（ホテル日航熊本, 熊本）

[学会活動など]

大越絵実加:

日本生薬学会 H30 年度代議員

大上哲也:

第 5 回 青森地域フォーラム、演題「青森 認知症支援プロジェクト 2017」、2018 年 2 月 18 日、青森しあわせプラザ

[社会活動・地域貢献]

大上哲也:

1 月 6 日 「いきいき脳健康教室」(認知症啓発活動) 於:アウガ 5階 「

3 月 14 日 「認知症カフェ」(認知症啓発活動)

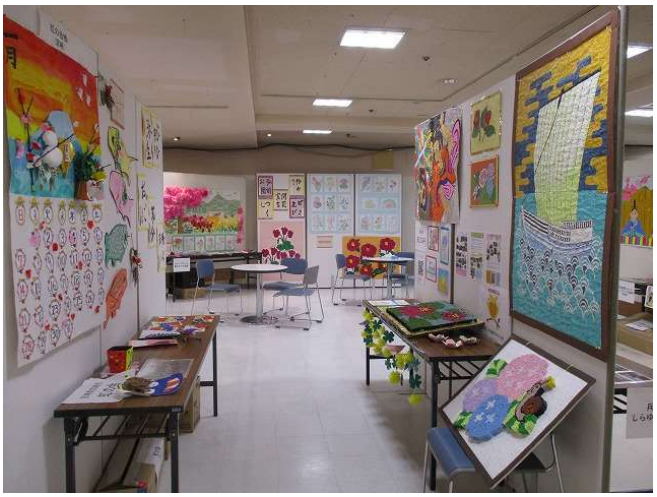
於:認知症グループホーム みずばしょう苑(青森市原別)

5 月3、4 日 第 5 回 青森オレンジ文化祭～認知症の方々の作品展示会

主催:大上研究室

後援:日本認知症学会、青森市、青森教育委員会、平内町、三戸町ほか

於:中三青森 8 階特別催会場



6 月 9 日～15 日 岩木(弘前市)地域住民対象「いきいき健診」

約 1000 名の認知機能の測定を実施。(6 月 13 日、NHK テレビ放映)

[その他]

大越絵実加:

1. 独立行政法人日本学術振興会 H30 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI(研究成果の社会還元・普及事業)実施代表者:大越 絵実加 ￥410,000

2. 公益財団法人青森学術文化振興財団 H30 地域の振興に係る研究事業(一般枠)健康意識向上に対する地域医療健康支援効果の研究－薬学生によるセルフメディケーション発信の有用性－ 実施代表者:三浦裕也、実施担当者:大越 絵実加 ￥300,000

大上哲也:

1.助成金

青森学術文化振興財団助成金　　青森オレンジ文化祭　　151,000 円

2.共同研究

株式会社トータルブレインケアとの共同研究　テーマ:認知症　300,000 円